

近畿自動車道(勢和～伊勢)

埋蔵文化財発掘調査報告

第 4 分 冊

蚊 山 遺 跡 所 り 垣 地 区



1992・3

三重県教育委員会
三重県埋蔵文化財センター

近畿自動車道(勢和～伊勢)

埋蔵文化財発掘調査報告

—— 第 4 分 冊 ——

序

近畿自動車道関・伊勢線にかかる現地の埋蔵文化財発掘調査は、第8次区間（久居～勢和）が昭和63年度に終了し、その年度後半から第9次区間（勢和～伊勢）が開始され、現在に至っております。第9次区間は、多気町・玉城町・伊勢市に所在する30遺跡の調査を対象とし、昭和63年度から調査を行ってまいりました。

第9次区間については、平成5年に予定されている伊勢神宮式年遷宮、及び翌年の祝祭博開催を臨んだ県行政の大幹に関連した道路建設でもあり、当事業にかかる埋蔵文化財の保護とその円滑な調整については鋭意努力いたしている処であります。

第9次区間の路線となる前述の市町が所在する地域は、古来から伊勢神宮との関連が深いことが分かっております。この地域に考古学的なメスを入れることは、当該地域の歴史を考えていくうえで、重要な資料を提供することとなりましょう。また、この調査によって得た資料を基に、当該地域の歴史を考えていくことも発掘調査を行った我々の大きな責務のひとつであり、ここに公刊する蚊山遺跡所り垣地区についても同様であります。開発と文化財の保存との接点を学術的な方面に求めることも重要なことといえましょう。

調査に際しては、日本道路公団、県土木部近畿道対策室、三重県土地開発公社、並びに伊勢市、多気町、玉城町の各関係機関、及び地元各位の多大なるご理解とご協力を得ることができました。文末となりましたが、ここに心からの御礼を申し上げます。

平成4（1992）年3月

三重県埋蔵文化財センター

所長 中 林 昭 一

例 言

1. 本書は平成3年度に三重県教育委員会が、日本道路公団名古屋建設局から委託を受けて実施した、近畿自動車道関・伊勢線第9次区間（勢和～伊勢）建設予定地内の遺跡発掘調査（整理・報告書作成業務）にかかる報告書のうち、蚊山遺跡所り垣地区の調査報告書（第4分冊）である。

2. 調査（整理・報告書作成業務）にかかる費用は、日本道路公団の全額負担による。

3. 調査（整理・報告書作成業務）の体制は下記のとおりである。

・調査主体 三重県教育委員会

・調査担当 三重県埋蔵文化財センター調査第2課第1係

調査第2課長 新田 洋 ・ 主事 角谷泰弘（伊勢市教育委員会から派遣）

主事 河瀬信幸 ・ 主事 稲本賢治（多気町教育委員会から派遣）

主事 河北秀実 ・ 主事 前川嘉宏（玉城町教育委員会から派遣）

（室内整理員）

反町瑩子・谷久保美知代・采野妙子・竹内ゆかり

4. 本書作成にかかる各整理は上記体制で行い、報文の執筆分担については目次及び各文末にも明記した。また、遺物整理、報文執筆にあたっては、下記の方々からご指導、助言を賜った。記して謝意を表する。（順不同、敬称略）

菅 原 正 明（財和歌山県文化財センター次長）

藤 澤 良 祐（瀬戸市教育委員会文化財課）

橋 本 久 和（高槻市埋蔵文化財センター技師）

5. 当遺跡については、既に『きんき道調査ニュースNo.23』（三重県埋蔵文化財センター1989.9）、及び『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査概報VI』（三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター1990.3）にその調査概要を公表しているが、本書をもって最終的な報告とする。なお、これらのニュース・概報では当遺跡を「宮地遺跡」と呼称していたが、本報告書では、今回の調査区が広大な遺跡範囲をもつ蚊山遺跡の一部であるという理解のもとに、調査区が所在する主な小字名をとり、「蚊山遺跡所り垣地区」と改名した。

6. 蚊山遺跡所り垣地区の記録類、出土遺物は三重県埋蔵文化財センターにて保管している。

7. 当遺跡で使用した遺構表示略記号は下記のとおりである。また、遺構実測図作成にあたっては、国土調査法による第VI座標系を基準とし、図面上の方位は座標北を用いた。

S B 掘立柱建物 S D 溝 S X 中世墓 S K 土坑 S Z 不明

8. **スキヤニングによるデータ取り込みのため、若干のひずみが生じています。**
各図の縮尺率はスケールバーを参照ください。

目 次

I. 前 言	1
1. 調査に至る経過	(新田 洋) 1
2. 調査の体制	(稲本 賢治) 1
3. 調査及び整理の方法	(稲本 賢治) 2
4. 調査の経過	(稲本 賢治) 3
II. 蚊山遺跡と周囲の遺跡	(前川 嘉宏) 9
III. 蚊山遺跡所り垣地区	(稲本 賢治) 13
1. はじめに	13
2. 遺構	13
3. 遺物	25
4. 結語	42

図 版 目 次

P L . 1	調査前風景	43	P L . 6	S K 22 遺物出土状況	48
	調査区全景			S K 24	
P L . 2	A 地区全景	44	P L . 7	S K 28	49
	B 地区全景			S Z 35	
P L . 3	S B 1	45	P L . 8	S D 40 土師器皿出土状況	50
	S B 2・3			S D 49 土師器皿出土状況	
P L . 4	S B 4	46	P L . 9	出土遺物	51
	S X 6		P L . 10	出土遺物	52
P L . 5	S K 13	47	P L . 11	出土遺物	53
	S K 18 検出状況		P L . 12	出土遺物	54

挿 図 目 次

第1図 近畿自動車道9次区間(勢和～伊勢) 内遺跡位置図 …………… 4	第10図 B地区土層断面図 …………… 19
第2図 調査区位置図 …………… 8	第11図 S B 1・2実測図 …………… 20
第3図 調査区小地区割図 …………… 8	第12図 S B 3・4実測図 …………… 21
第4図 周囲の遺跡位置図 …………… 10	第13図 S X 6実測図 …………… 22
第5図 遺跡地形図 …………… 12	第14図 S K 13・16・24・28実測図 …………… 23
第6図 遺構配置図 …………… 14	第15図 S Z 35実測図 …………… 24
第7図 A地区遺構平面図 …………… 15・16	第16図 出土遺物実測図 …………… 39
第8図 B地区遺構平面図 …………… 17	第17図 出土遺物実測図 …………… 40
第9図 A地区土層断面図 …………… 18	第18図 出土遺物実測図 …………… 41

表 目 次

第1表 発掘調査遺跡一覧 …………… 5	第5-5表 出土遺物観察表 …………… 32
第2表 発掘調査遺跡一覧 …………… 6・7	第5-6表 出土遺物観察表 …………… 33
第3表 周囲の遺跡一覧 …………… 11	第5-7表 出土遺物観察表 …………… 34
第4表 掘立柱建物一覧 …………… 13	第5-8表 出土遺物観察表 …………… 35
第5-1表 出土遺物観察表 …………… 28	第5-9表 出土遺物観察表 …………… 36
第5-2表 出土遺物観察表 …………… 29	第5-10表 出土遺物観察表 …………… 37
第5-3表 出土遺物観察表 …………… 30	第5-11表 出土遺物観察表 …………… 38
第5-4表 出土遺物観察表 …………… 31	

I. 前 言

1. 調査に至る経過

近畿自動車道関・伊勢線（伊勢自動車道）の第9次区間（勢和～伊勢）の建設区間については、昭和47年に基本計画、57年に整備計画が、そして昭和60年2月に建設大臣から日本道路公団に施行命令が出されている。また、翌月の3月には実施計画認可と路線発表がなされている。

この第9次区間は、第8次区間（久居～勢和）の延長路線として、勢和・多気インターチェンジから仮称伊勢インターチェンジまでの延長21.5kmの建設計画であり、行政区間としては、勢和村、多気町、玉城町、伊勢市をほぼ東西に横断する形をとっている。

この路線は、三重県の中・南伊勢と近畿及び中部経済圏とを結ぶ幹線道路として、一般国道23・42号の交通緩和とともに伊勢湾岸と内陸部の産業、あるいは伊勢志摩・紀州への観光ルートとしての大きな使命をもつものといわれている。そのうち、第8次区間（久居～勢和）については、平成2年12月に供用開始されている。

さて、第9次区間（勢和～伊勢）建設にかかる埋蔵文化財の保護、調整協議については、昭和50年段階に建設省名阪国道工事事務所、県土木部道路建設課と県教育委員会文化課との協議と現地立会い調査という形で開始された。また、事業地内にかかる埋蔵文化財の分布調査については、昭和53・55・56年に3次にわたって県教育委員会文化課が県文化財調査員等の協力を得て実施し、昭和56年3月14日付、教文第429号で道路建設課長あてに「近畿自動車道伊勢線関係遺跡分布調査結果報告について」として公文書通知をしている。

その後については、第8次区間（久居～勢和）の埋蔵文化財発掘調査の体制と諸準備に追われた形となり、昭和59年度末には第8次区間の現地発掘調査を実施するに至った。この第8次区間の現地発掘調査には昭和59年度を皮切りに開始され、昭和63年度前半までの足かけ5年余の期間が費やされた。

第9次区間（勢和～伊勢）の遺跡取り扱いについては、昭和61年度になって具体的に浮上し、試掘計画等について、日本道路公団松阪工事事務所と調整・協議するに至った。また、昭和62年度初めには、再度、第9次区間建設予定地についての遺跡確認と分布調査を実施した。この段階で公団あてに提示した遺跡は計26件、面積にして114,200㎡である。

なお、この第9次区間については、その後の新発見遺跡等についての協議を経て、多気町で1件（佐奈水銀鉱山跡）、玉城町で1件（泉貢窯跡）、伊勢市内で2件（大谷古墳、古市・中之地蔵町遺跡）の遺跡が追加されている。

以上のような経過を経て、第9次区間の現地における埋蔵文化財発掘調査は、昭和63年度の後半期から開始することとなった。

また、最後となりますが、調査の円滑推進にあたっては、日本道路公団松阪工事事務所、県土木部近畿道対策室、伊勢市建設部近畿自動車道対策室他、伊勢市・多気町・玉城町の各教育委員会に、現地にあたっては各地元自治会長をはじめ、多くの方々のご援助を得ました。加えて、発掘業務については三重県土地開発公社のご協力をいただきました。文末ながらここに記して厚くお礼申し上げます。

（新田 洋）

2. 調査の体制

調査は三重県教育委員会が主体となり、三重県埋

蔵文化財センターが担当した。

以下は蚊山遺跡所り垣地区の発掘調査が実施された平成元年度の調査体制である。

主幹兼調査第2課長 山澤義貴

主 査 新田 洋

主 事 田村陽一

〃 河北秀実

〃 小坂宜広

〃 山崎恒哉

〃 江尻 健

〃 伊藤裕偉

〃 角谷泰弘

〃 稲本賢治

〃 前川嘉宏

室内整理員 反町瑩子

〃 谷久保美知代

〃 采野妙子

〃 吉村道子

〃 白石みよ子

〃 山分孝子

室内整理員 竹内由美

〃 田中智子

〃 中山 学

〃 反町有子

調査指導（順不同、敬称略）

水野正好（奈良大学教授）

泉 拓良（奈良大学助教授）

玉田芳英（奈良国立文化財研究所文部技官）

磯部 克（三重県立津西高等学校教諭）

奥 義次（度会町教育委員会）

発掘調査土木工部門担当

三重県土地開発公社

堀内信吾

稲葉庄衛

平生 憲

浜口安光

（稲本賢治）

3. 調査及び整理の方法

蚊山遺跡所り垣地区の発掘調査における調査及び整理の方法は、原則として近畿自動車道関・伊勢線第8次区間（久居～勢和）の調査方法に則って行った。

1. 現地調査の方法

地区割

調査に際しては、調査区をほぼ東西に横切る農道を境にして、北側をB地区、南側をA地区と呼称することにした。

また、調査区全域に4m×4mの小地区を設定した。小地区割の基本軸は、道路センター測点STA603+20を原点とし、STA601+80を視準して設定した。小地区の設定にあたっては、当調査区に隣接する蚊山遺跡左郡地区の小地区設定と同時に実施したため、基本軸の原点と視準点は蚊山遺跡左郡地区の調査区内にある。

各小地区には基本軸に直交してアルファベット、

基本軸に沿ってアラビア数字を与え、各小地区の西隅の杭を小地区の名称とした。この小地区割の作業は第1次調査（試掘調査）の時点で行い、第2次調査（本調査）でもそれを踏襲した。（第3図）

遺構カード

遺構カードは原則として4m×4mの小地区毎に作成し、遺構略図は遺構検出後、掘り下げまでに記入した。さらに、遺構の重複関係、土質、出土遺物等の現場で判明した情報を可能な限り記入した。

掘立柱建物・土坑・溝等の遺構番号は全遺構を通して番号を与えた。ただし、多数あるピットについては小地区別に通し番号を与えた。

写真撮影

遺構等の写真撮影は原則として6×7cm版（モノクロネガ、カラーリバーサル）及び35mm版（モノクロネガ、カラーリバーサル）による。また、35mmデータカメラ（カラーネガ）でも同一カットの撮影をするほか、作業進捗状況にあわせて日誌としての撮影

も行った。

使用したカメラはアサヒペンタックス67（6×7 cm版）・ニコンF-501AF（35mm版）である。

遺構実測

道路工事計画に関する杭が国土座標に基づくため、将来予想される隣接地での発掘調査との関連が把握できるように、遺構実測は国土座標（第Ⅵ座標系）に基づいて行った。なお、実測方法は遣り方実測と平板測量を用いた。

2. 資料整理の方法

遺構実測図・遺物実測図

本遺跡の遺構実測図の整理番号は16-0001～16-0084、遺物実測図の整理番号は16-0001～16-0179である。これらの図面はファイルに収納し、整理番号、図面の内容、縮尺等を記入した一覧表を2部作

成し、1部を各図面ファイルに貼付、他の1部を綴じ込んで図面台帳とした。なお、各図面ともマイクロ撮影した。

遺構写真・遺物写真

モノクロ写真はベタ焼きとともにネガアルバムに貼付整理し、各コマ毎に地区名、遺構名、撮影方向等のデータを記入した。

遺構を撮影した35mm版のカラーズライドは各コマの枠毎に16-0001～16-0307の整理番号を付し、地区名、遺構名、撮影方向等のデータを記入した一覧表を作成し、1部をスライドファイルへ貼付し、1部を台帳として保管した。

拓本

拓本は、報告書挿図等に使用する時はコピーを使い、原本は台紙に貼り付けてファイルに保管した。

（稲本賢治）

4. 調査の経過

第1次調査（試掘調査）は、平成元（1989）年1月26日から同年2月2日にかけて行った。調査面積は、114㎡であった。その結果、遺構が検出された調査区の南西部および北西部を中心に調査区を設定し、平成元（1989）年5月15日から同年9月21日にかけて第2次調査（本調査）を行った。第1次調査の結果から、A地区は表土直下から約20cmの堆積が認められる黒褐色砂質土を遺物包含層である暗褐色砂質土の直上までバックフォーにて掘削した。B地区は、遺物包含層が薄く、約30cmの堆積が認められる灰黄褐色粘質土を遺構検出面である褐色粘質土の直上までバックフォーにて掘削した。遺構の検出・掘削は全て人力で行った。最終調査面積は、3,200㎡であった。

《調査日誌抄》

第1次調査（試掘調査）

1月26日（木）現地での調査開始。

1月27日（金）G13で中世の土師器・刀子等出土。

2月1日（水）R・S19でピット確認。

2月2日（木）試掘坑の埋め戻し完了。

第2次調査（本調査）

5月15日（月）業者入札。（株）山野建設が落札。

5月16日（火）業者との現地協議。

5月22日（月）重機にて調査区の表土掘削。

5月24日（水）・25日（木）A地区にトレンチを入れ土層を確認。

5月26日（金）B地区の包含層掘削開始。

5月29日（月）～6月1日（木）B地区の包含層掘削と遺構検出。

6月5日（月）B地区の東端でチャート剥片・石核が出土。A地区の包含層掘削開始。

6月7日（水）A地区の包含層掘削と遺構検出。

6月8日（木）A地区I13付近の包含層から土師器片が多量に出土。

6月12日（月）A地区の包含層掘削と遺構検出。

6月13日（火）SD40・SZ35を検出。

6月14日（水）SB1・SK13を検出。

6月20日（火）・21日（水）A地区の包含層掘削と遺構検出。

6月26日（月）B地区の遺構掘削終了。

6月27日（火）～29日（木）B地区写真撮影とA地区の包含層掘削。

6月30日（金）A地区の包含層掘削と遺構検出。

7月4日（火）A地区の包含層掘削と遺構検出。



第1図 近畿自動車道9次区間（勢和～伊勢）内遺跡位置図（1：100,000）

近畿自動車道第9次区間(勢和～伊勢)
埋蔵文化財発掘調査計画

No	遺跡名	所在地	確認面積(m ²)	調査面積(m ²)				合計
				昭和63年度		平成2年度		
				試掘	本調査	試掘	本調査	
1	王子谷遺跡	多気町前村字王子谷	1,000	48	144		192	
2	桃谷(古墳)	〃 〃 字桃谷、五桂字ツツジ	100		27		27	
3	ツツジ(古墳)	〃 五桂字ツツジ	100		20		20	
4	牛バサマA遺跡	〃 野中字牛バサマ・定越	1,500	304		3,000	3,304	
5	牛バサマB遺跡	〃 〃 〃 ・ナルコ	4,700	336		5,500	5,836	
6	ヒジヤ口遺跡	玉城町原字ヒジヤ口・国東河内	5,600	288			288	
7	のせんじ遺跡	〃 積良字のせんじ・泉貢	1,000	96			96	
8	浦ノ内遺跡	〃 〃 字浦ノ内	2,800	192			2,692	
9	上ノ垣内遺跡	〃 山神字上ノ垣内・坂ノ辻	3,400	196		2,500	196	
10	富ヶ城跡	〃 〃 字西老谷・追谷	2,000				2,180	
11	山神東城跡	〃 〃 字東老谷	2,700				441	
12	里山(古墳)	〃 〃 字里山・東岡谷・仲山	100		30		30	
13	楠ノ木遺跡	〃 勝田字楠ノ木・二ノ谷・ヤケ山他	39,000		2,032	6,890	8,922	
14	矢倉戸前(古墳)	〃 〃 宮古字細谷	100		20		20	
15	畷山遺跡左郡地区	〃 〃 岩出字塚名・左郡	10,000	587		11,500	12,087	
16	畷山遺跡所り垣地区	〃 〃 〃 所り垣	2,300	144		3,200	3,344	
17	中ノ垣外遺跡	伊勢市佐八町字中之垣外	4,400		400	2,100	2,500	
18	寺原B遺跡	〃 〃 字寺原	2,400		224	500	724	
19	ハノカ遺跡・口山田遺跡	〃 津村町字ハノカ・口山田、佐八町字向口	10,000		792	2,800	3,739	
20	落合古墳群	〃 〃 字口山田	1,200		151	3,165	3,316	
21	井戸谷遺跡	〃 前山町字井戸谷	400		336		336	
22	河原谷遺跡	〃 〃 字河原谷	100			100	100	
23	亀谷郡C遺跡	〃 〃 字亀谷郡	3,500		312		2,507	
24	中起遺跡	〃 勢田町字中起	3,500				257	
25	蛸尾遺跡	〃 〃 久世戸町字蛸尾	520				32	
26	奥遺跡	〃 〃 桶部町字奥	11,800				494	
27	泉貢窯跡	玉城町積良字泉貢・向山丑岡	4,500		330	2,556	2,886	
28	佐奈水銀鉱山跡	多気町前村字井戸谷	400			400	400	
29	大谷(古墳)	伊勢市佐八町字大谷	400			120	120	
30	古市・中之地蔵町遺跡	〃 中之町・桜木町	5,000				2,612	
計			124,520	2,191	4,818	35,590	16,918	
合			計	2,191+	40,408	18,663	3,164	
合			計	2,191+	40,408	18,663	64,426	

第1表 発掘調査遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	調査面積(㎡)		調査期間	担当者	概要	所収分冊	
1	王子谷遺跡	多気町前村	48	計 192	1989. 2. 6～ 2. 7	小坂 宜広 山崎 恒哉	(試掘) 遺構なし、遺物細片	1	
			144		1990. 1. 12～ 1. 18	伊藤 裕偉	(試掘) 遺構なし、遺物細片		
2	桃谷(古墳)	多気町前村 五桂	27	27	1990. 1. 18～ 1. 22	伊藤 裕偉	(試掘) 遺構・遺物なし		
3	ツツジ(古墳)	多気町五桂	20	20	1990. 1. 22～ 1. 23	伊藤 裕偉	(試掘) 遺構・遺物なし		
4	牛バサマA遺跡	多気町野中	304	3,304	1989. 1. 9～ 2. 7	山崎 恒哉	(試掘)		
			3,000		1989. 11. 17～1990. 1. 11	山崎 恒哉	縄文時代以降の土器出土		
5	牛バサマB遺跡	多気町野中	336	5,836	1988. 12. 12～1989. 1. 19	山崎 恒哉	(試掘)		
			5,500		1989. 5. 22～ 8. 8	江尻 健	鎌倉時代の掘立柱建物検出		
6	ヒジャ口遺跡	玉城町原	288	288	1988. 11. 28～12. 1	小坂 宜広 野田 修久	(試掘) 遺構なし、遺物少量		
7	のせんじ遺跡	玉城町積良	96	96	1988. 12. 2～12. 7	小坂 宜広 野田 修久	(試掘) 遺構なし、遺物少量		2
8	浦ノ内遺跡	玉城町積良	192	2,692	1989. 2. 22～ 3. 3	小坂 宜広 野田 修久	(試掘)		
			2,500		1990. 2. 8～ 3. 22	江尻 健	縄文時代以降の土器出土		
9	上ノ垣内遺跡	玉城町山神	208	208	1988. 12. 20～12. 26	小坂 宜広 野田 修久	(試掘) 遺構なし、遺物少量		
10	山神城跡西老谷地区 (富ヶ城跡)	玉城町山神	286	2,466	1990. 5. 15～ 6. 1	稲本 賢治	(試掘)		
			2,180		1990. 7. 20～12. 27	稲本 賢治 大川 勝宏	中世の堀切など検出		
11	山神城跡ベト谷地区 (山神東城跡)	玉城町山神	441	4,363	1990. 5. 15～ 6. 1	稲本 賢治	(試掘)		
			3,922		1990. 7. 20～12. 27	稲本 賢治 大川 勝宏	中世の堀切・墓など検出		
12	里山(古墳)	玉城町山神	30	30	1990. 2. 13～ 2. 14	江尻 健	(試掘) 遺構・遺物なし		
13	楠ノ木遺跡	玉城町勝田	2,032	8,922	1990. 5. 16～ 6. 5	田村 陽一	(試掘)		
			6,890		1990. 6. 29～11. 17	伊藤 裕偉	平安時代末～室町時代後半の屋敷地や墓地を検出		
14	矢倉戸前(古墳)	玉城町宮古	20	20	1989. 9. 1～ 9. 6	伊藤 裕偉	(試掘) 遺構・遺物なし	1	
15	蚊山遺跡左郡地区 (蚊山遺跡)	玉城町岩出	587	12,087	1989. 1. 10～ 2. 2	小坂 宜広 野田 修久	(試掘)	6	
			11,500		1989. 5. 16～1990. 3. 20	小坂 宜広 稲本 賢治 角谷 泰弘 前川 嘉宏	古墳の周溝、中世の掘立柱建物跡・墓など多数検出		
16	蚊山遺跡所り垣地区 (宮地遺跡)	玉城町岩出	144	3,344	1989. 1. 26～ 2. 2	小坂 宜広 野田 修久	(試掘)	4	
			3,200		1989. 5. 22～ 9. 21	山崎 恒哉 稲本 賢治	平安時代末の墓、鎌倉時代の掘立柱建物など検出		

第2表 発掘調査遺跡一覧(太ゴチックは本書所収遺跡)

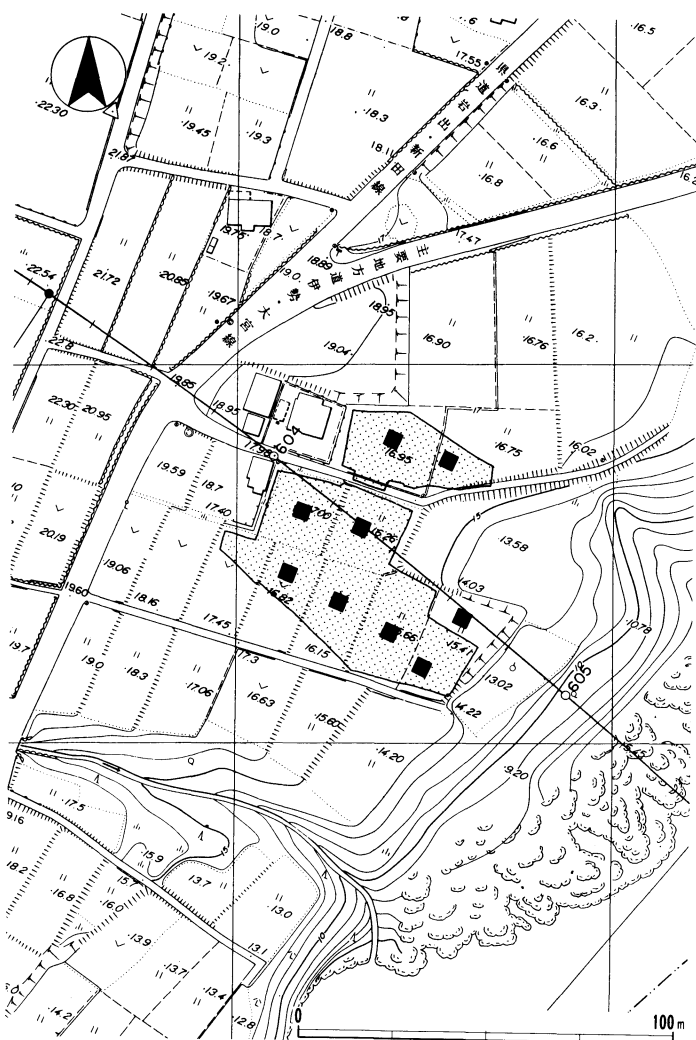
番号	遺跡名	所在地	調査面積 (㎡)		調査期間	担当者	概要	所収分冊
17	中ノ垣外遺跡	伊勢市佐八町	400	2,500	1989. 9. 18～10. 3 1989. 11. 13～12. 23	田村 陽一	(試掘)	5
			2,100			前川 嘉宏	平安時代末葉の掘立柱建物検出	
18	寺原B遺跡	伊勢市佐八町	224	724	1989. 9. 18～10. 3 1989. 11. 14～1990. 1. 14	田村 陽一	(試掘)	5
			500			角谷 泰弘	鎌倉時代前半の掘立柱建物検出	
19	ハノカ遺跡	伊勢市津村町	208	3,739	1990. 2. 14～ 3. 27 1990. 5. 31～ 6. 11	角谷 泰弘 前川 嘉宏	(試掘)	7
			147			角谷 泰弘	(試掘)	
	2,100	角谷 泰弘	縄文時代・鎌倉時代の土器出土					
	584	角谷 泰弘 前川 嘉宏	(試掘)					
20	落合古墳群	伊勢市津村町	151	3,316	1990. 2. 14～ 3. 27 1990. 4. 24～10. 31	角谷 泰弘 前川 嘉宏	(試掘)	7
			3,165			伊藤 裕偉	4世紀末頃～6世紀前葉の群集墳	
21	井戸谷遺跡	伊勢市前山町	336	336	1990. 3. 14～ 3. 27	角谷 泰弘 前川 嘉宏	(試掘) 明確な遺構なし	8
22	河原谷遺跡	伊勢市前山町	100	100	1990. 10. 11～10. 17	角谷 泰弘 川崎 正幸	遺物少量出土	
23	亀谷郡C遺跡 (世義寺跡)	伊勢市前山町	312	2,507	1990. 2. 14～ 3. 27 1990. 5. 7～7. 9	角谷 泰弘 前川 嘉宏	(試掘)	8
			2,195			齋藤 直樹 前川 嘉宏	経文が記された陶経筒片出土	
24	中起遺跡	伊勢市勢田町	257	257	1990. 10. 16～10. 23	伊藤 裕偉	(試掘)	2
25	蝮尾遺跡	伊勢市久世戸町	32	32	1991. 8. 19	河瀬 信幸	(試掘) 遺構・遺物なし	
26	奥遺跡	伊勢市楠部町	494	494	1990. 10. 23～11. 1 1991. 1. 14～ 1. 16	齋藤 直樹	(試掘) 遺構なし、遺物少量	1
27	泉貢窯跡	玉城町積良	330	2,886	1989. 5. 22～ 5. 29 1990. 8. 28～11. 20	伊藤 裕偉 前川 嘉宏	(試掘) 10世紀前半頃の須恵器窯1基検出	
28	佐奈水銀鉱山跡	多気町前村	400	400	1990. 1. 16～ 3. 30	田村 陽一	2基の採掘坑口周辺を調査	1
29	大谷(古墳)	伊勢市佐八町	120	120	1990. 7. 2～ 7. 7	前川 嘉宏	(試掘) 遺構・遺物なし	8
30	古市・中之地藏町遺跡	伊勢市中之町 桜木町	127	2,287	1990. 10. 22～11. 5 1991. 6. 22～ 8. 31	角谷 泰弘	(試掘)	
			850			角谷 泰弘 河北 秀実 稲本 賢治	近世以降の町並の遺構を検出	
			420		前川 嘉宏 角谷 泰弘			
			220		角谷 泰弘			
670	河北 秀実							

※調査総面積は63,593㎡、ただし本調査面積に試掘面積が重複する遺跡あり。

7月5日(水) B地区の平板測量。
 7月6日(木) SX6・SB2・SB3を検出。
 7月7日(金) A地区の包含層掘削と遺構検出。
 7月11日(火) A地区の包含層掘削と遺構検出。
 7月12日(水) SK22を検出。
 7月14日(金) SK29を検出。
 7月15日(土) A地区の包含層掘削と遺構検出。
 7月17日(月)～21日(金) A地区の包含層掘削と遺構検出。
 7月24日(月) A地区の遺構掘削終了。
 7月28日(金) 遺構平面図作成準備。
 7月31日(火) 調査区全景写真撮影。
 8月1日(火)～4日(金) 遺構写真撮影。遺構実測図作成。

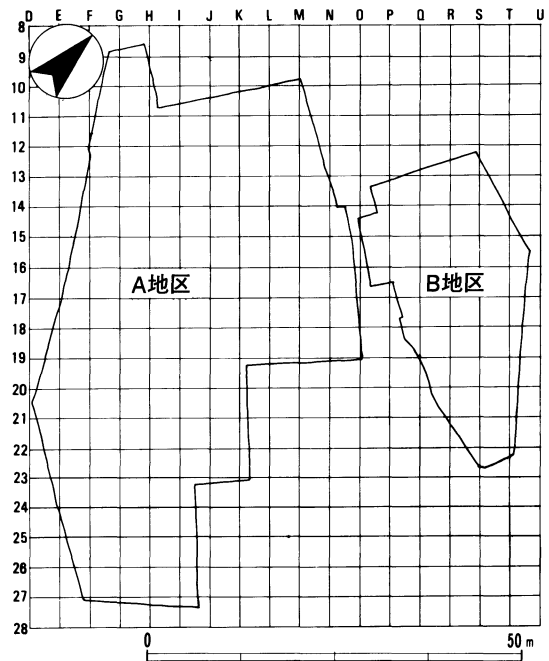
8月8日(火)～11日(金) 遺構実測図作成。
 8月16日(水)～18日(金) 遺構実測図作成。下層の調査。
 8月21日(月)～24日(木) 下層の調査。
 8月28日(月)～9月1日(金) 土層断面図作成。
 9月2日(土) 現地説明会。
 9月4日(月)～7日(木) SB1検出のため調査区を拡張。
 9月11日(月)～14日(木) 下層調査範囲実測。
 9月18日(月) 下層調査範囲写真撮影。
 9月20日(水)～21日(木) 遣り方実測範囲外の平板測量。現地での調査終了。

(稲本賢治)



第2図 調査区位置図 (1:2,000)

[黒ベタは第1次調査試掘坑位置・網目は第2次調査範囲]



第3図 調査区小地区割図 (1:1,000)

Ⅱ．蚊山遺跡と周囲の遺跡

三重県と奈良県との県境にある大台ヶ原山(1,696 m) 付近に源を発する一級河川宮川は、南西から北東方向へゆるく蛇行しながら多気・度会の両郡を貫流して伊勢湾に注ぐ。その河口から約11km上流に遡った宮川左岸の河岸段丘上に度会郡玉城町岩出の集落がある。集落から約1 km南は度会郡度会町で、宮川の右岸は伊勢市域である。

このあたりには旧石器時代から中世にかけての各時代の遺跡が広く分布しており、蚊山遺跡もその一つである。蚊山遺跡とその周囲の遺跡については来年度刊行予定の第6分冊(蚊山遺跡左郡地区)で詳述するので、ここでは蚊山遺跡の概略を述べ、周囲の遺跡の位置図(第4図)および一覧表(第3表)を掲載するにとどめる。

蚊山遺跡

岩出集落の南側には宮川と丘陵とに挟まれた標高15~24mの細長い段丘面が広がる。基盤は片理がよく発達した緑色片岩で、その上には耕作土として利用されている黒色の砂質シルト(黒ボク)が堆積している。近畿自動車道の路線はこの段丘面のほぼ中央部を北西から南東方向へ横切って宮川を渡る。

この段丘面上には各時代の遺物が広く散布しており、特に中世の土師器片が多くみられる。路線のすぐ北側の字角垣内(すみがいと)ではナイフ形石器や剥片が表面採集されている^①。また、地元の方の話では、路線近くの畑に戦前まで古墳と思われる小高い塚が存在していたとのことであり、地元にはこのあたりに寺があったという伝承も残っている。

蚊山遺跡の範囲は当初は自動車道の路線の南側にほぼ隣接する字蚊山を中心とした約10,000㎡を指していた。しかし、平成元(1989)年度に実施された近畿自動車道建設に伴う2件の発掘調査(字左郡・塚名の調査=約11,500㎡、所り垣・塚名の調査=3,200㎡)において、古墳の痕跡である周溝や中世の掘立柱建物・井戸・墓塚等多数の遺構が検出され、遺構が路線範囲を越えて広く存在することが予想されたため、この2件の調査区名を蚊山遺跡の左郡

(さこり)地区、所り垣(しよりがき)地区とした。さらに、平成2(1990)年度に実施された県道改良事業に伴う発掘調査(約3,500㎡)^②においても左郡地区や所り垣地区と一連のものと考えられる多数の遺構が検出されたことにより、蚊山遺跡の範囲がさらに北側に大きく広がることが確認された。現在のところ、蚊山遺跡の範囲は岩出集落の南側に広がる段丘面のほぼ全域にわたる約150,000㎡と考えられる。

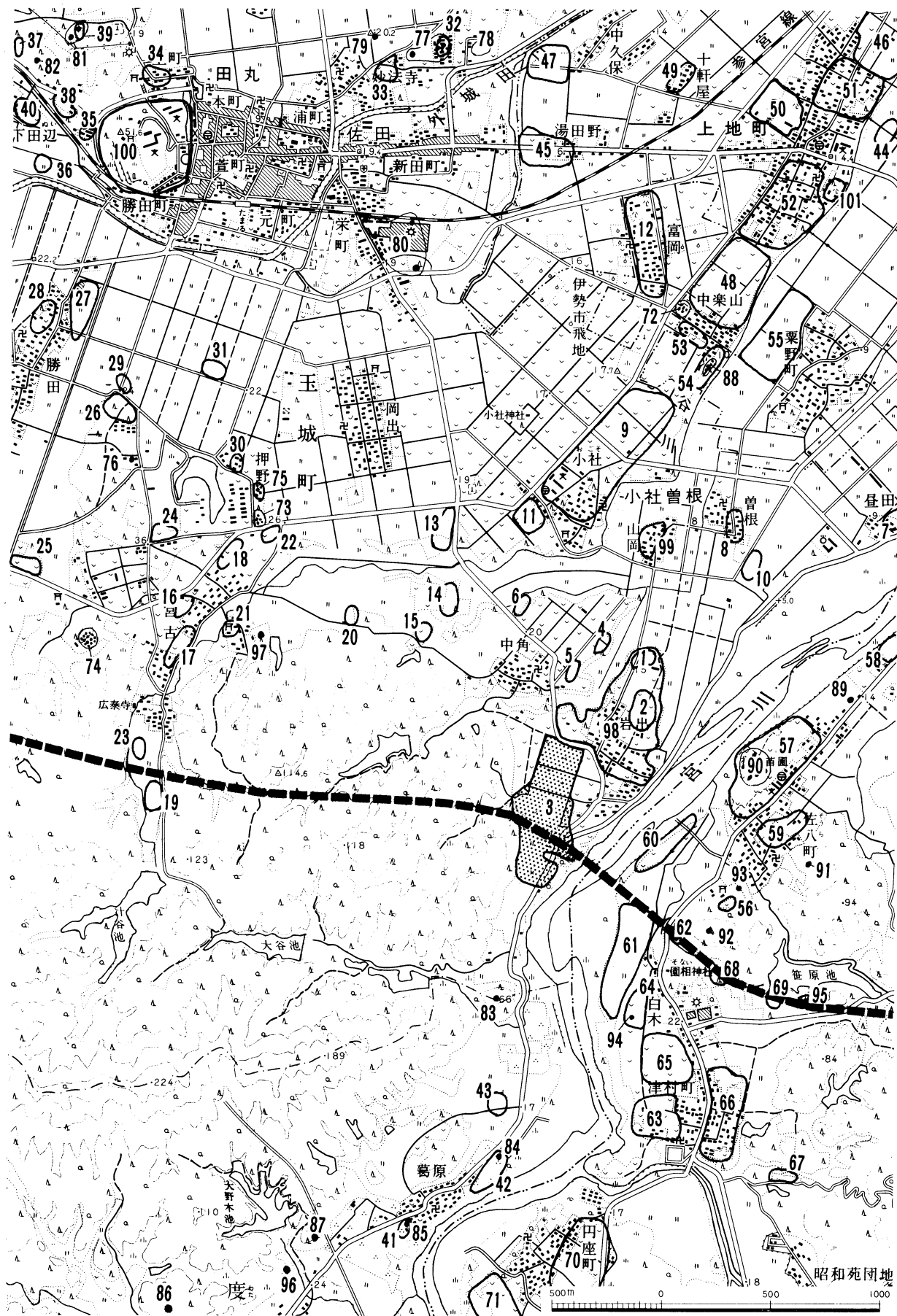
最も調査面積が広い左郡地区の調査では、整理箱で500箱以上の遺物が出土し、後期古墳の周溝21基、掘立柱建物44棟、井戸12基、中世墓約40基^③等の多数の遺構が検出された。平成2(1990)年度の調査で検出された遺構は、後期古墳の周溝4基(うち1基は左郡地区で検出された周溝の一部)、鎌倉時代の掘立柱建物6棟、井戸3基、土塚墓13基、室町時代の井戸3基などである^④。所り垣地区の調査結果については本書に述べられている。

このように、蚊山遺跡からは旧石器時代以降の各時代の遺物が出土しているが、鎌倉時代・室町時代のものが圧倒的に多い。平安時代以前のは少なく、弥生時代以前のはきわめて稀である。発掘調査で検出された遺構で時期の判明しているものは、古墳の痕跡である周溝を除いてほとんどが平安時代末葉以後の中世のものである。

(前川嘉宏)

〔註・参考文献〕

- ① 吉田義隆「度会郡玉城町カリコ遺跡発見の石器について」『歩跡』2号 皇学館大学考古学研究会 1972
奥 義次「Ⅱ遺跡の位置と環境」『上地山遺跡発掘調査報告書』玉城町教育委員会 1985
- ② 現地説明会資料『蚊山遺跡』三重県埋蔵文化財センター 1991
- ③ 「中世墓約40基」としたのものの中には不確定なものも数基含まれている。
- ④ ②と同じ。



第4図 周囲の遺跡位置図 (1:25,000)

図中 番号	市町遺 跡番号	遺 跡 名	所 在 地	時 代
1	130	大 森 遺 跡	玉城町岩出字大森	縄文以降
2	131	城 遺 跡	〃 〃 字城	縄文以降
3	302	蚊 山 遺 跡	〃 〃 字左郡 他	旧石器以降
4	134	ま ん 上 遺 跡	〃 中角字まん上	弥生以降
5	135	と の 山 遺 跡	〃 〃 字との山	弥生以降
6	136	アレキリ遺跡	〃 〃 字アレキリ	旧石器・古墳以降
7	269	昼田北浦遺跡	〃 昼田字北浦	中 世
8	270	里 内 遺 跡	〃 小社曾根字里内	中 世
9	272	小 社 遺 跡	〃 〃 字ウエ松他	弥生以降
10	271	中ノ切遺跡	〃 山岡字中ノ切	鎌 倉
11	273	上 黒 土 遺 跡	〃 〃 字上黒土	古墳～鎌倉
12	400	富岡里浦遺跡	〃 富岡字里浦	中 世
13	377	杉 山 遺 跡	〃 岡出字杉山	弥生・平安以降
14	137	明 豆 遺 跡	〃 宮古字明豆	縄文以降
15	138	狼 谷 遺 跡	〃 〃 字狼谷	縄文以降
16	148	上 久 保 遺 跡	〃 〃 字上久保	縄文・古墳以降
17	149	道小垣内遺跡	〃 〃 字道小垣内	縄文・古墳以降
18	274	寺 越 遺 跡	〃 〃 字寺越他	縄文以降
19	301	坊 田 遺 跡	〃 〃 字坊田	中 世
20	362	上 地 山 遺 跡	〃 〃 字上地山 他	旧石器・弥生
21	369	東 村 遺 跡	〃 〃 字東村	縄文・平安以降
22	376	下之垣内遺跡	〃 〃 字下之垣内	旧石器・平安以降
23	378	笹 原 遺 跡	〃 〃 字笹原	縄文・平安以降
24	147	浜 塚 A 遺 跡	〃 勝田字浜塚	縄文・古墳以降
25	156	矢 野 々 遺 跡	〃 〃 字矢野々	弥生以降
26	157	浜 塚 B 遺 跡	〃 〃 字浜塚	弥生以降
27	288	こはれ松遺跡	〃 〃 字こはれ松	縄文以降
28	289	中 出 遺 跡	〃 〃 字中出	中 世
29	364	東 の び 遺 跡	〃 〃 字東のび	旧石器以降
30	372	鉄 砲 塚 遺 跡	〃 〃 字鉄砲塚	縄文・古墳以降
31	375	押野池しき遺跡	〃 〃 字押野池しき	縄文・平安以降
32	8	荒 子 遺 跡	〃 中楽字荒子	旧 石 器
33	368	東 長 遺 跡	〃 妙法寺字東長 他	平安以降
34	401	上 町 遺 跡	〃 田丸字上町	中 世
35	295	波 瀬 A 遺 跡	〃 下田辺字波瀬	古 墳
36	366	ミドロ遺跡	〃 〃 字ミドロ	旧 石 器
37	367	茶 白 山 遺 跡	〃 〃 字茶白山	縄 文
38	392	波 瀬 B 遺 跡	〃 〃 字波瀬	弥生・室町
39	393	土 山 遺 跡	〃 〃 字土山	古墳以降
40	410	高 垣 内 遺 跡	〃 〃 字高垣内	中 世
41	3	葛原新田遺跡	度会町葛原字新田	弥 生
42	4	黒 土 遺 跡	〃 〃 字黒土	古墳以降
43		上ノ垣外遺跡	〃 〃 字上ノ垣外	縄文以降
44	96	奥 の 浦 遺 跡	伊勢市上地町字奥の浦	古墳以降
45	105	湯 野 遺 跡	〃 〃 字湯野	室 町
46	118	野 垣 内 遺 跡	〃 〃 字野垣内	弥生・平安以降
47	120	中久保B遺跡	〃 〃 字中久保	鎌倉以降
48	123	中 楽 山 遺 跡	〃 〃 字中楽山	弥 生
49	168	十 軒 屋 遺 跡	〃 〃 字十軒屋	室 町
50	169	下 中 野 遺 跡	〃 〃 字下中野	平安以降
51	170	下 通 遺 跡	〃 〃 字下通	平安以降
52	171	上 通 遺 跡	〃 〃 字上通	平安以降
53	173	中 楽 山 南 遺 跡	〃 〃 字小中楽	弥生以降
54	174	ま こ も 遺 跡	〃 栗野町字まこも	弥生以降

第3表 周囲の遺跡一覧

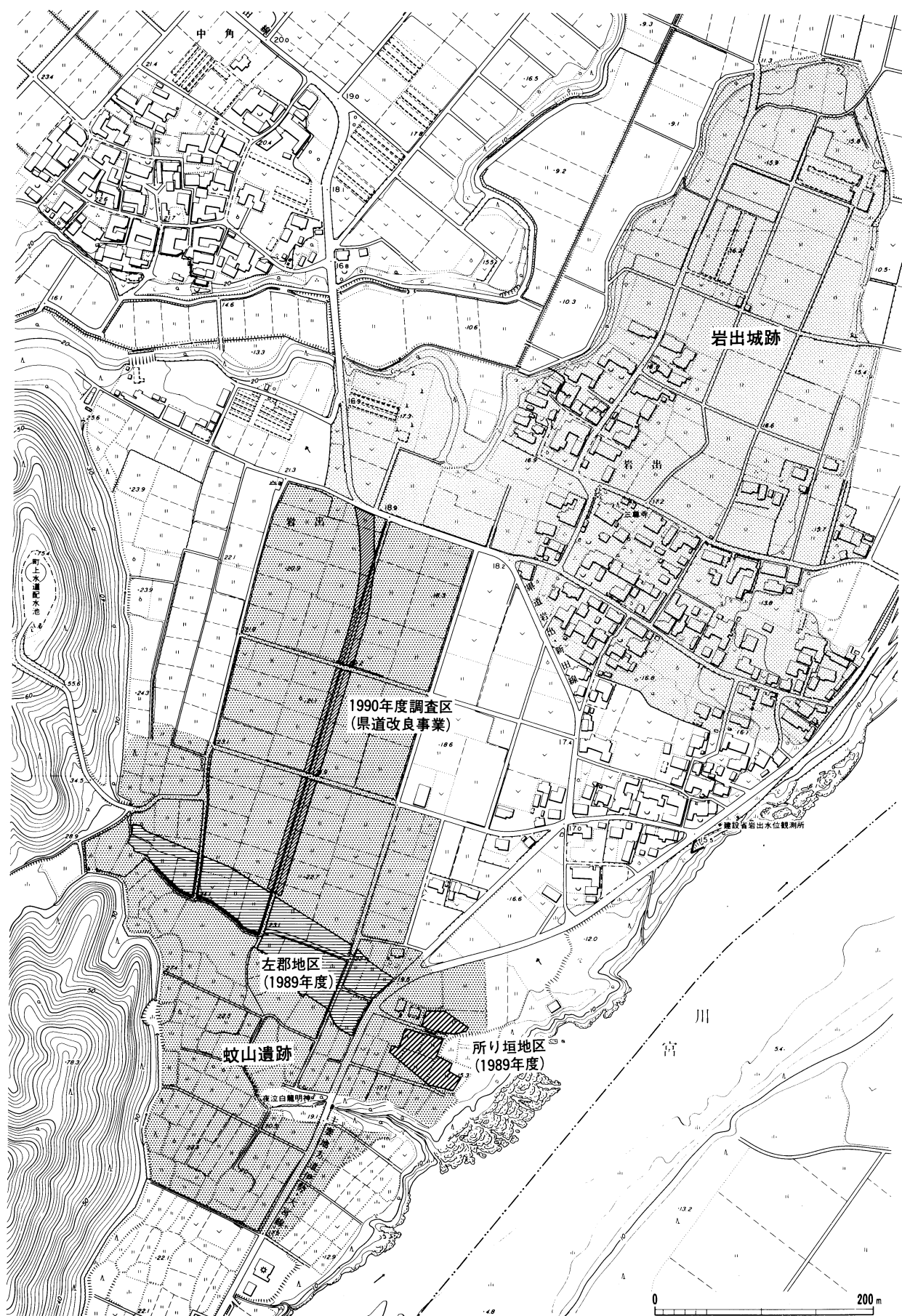
図中 番号	市町遺 跡番号	遺 跡 名	所 在 地	時 代
55	175	汁谷川東遺跡	伊勢市栗野町字まこも	平安以降
56	55	寺 原 A 遺 跡	〃 佐八町字寺原	古 墳
57	58	佐八藤波遺跡	〃 〃 字藤波	縄文～室町
58	233	下 新 田 遺 跡	〃 〃 字下新田	鎌倉以降
59	236	元 新 畑 遺 跡	〃 〃 字元新畑	鎌倉以降
50	237	土 畑 遺 跡	〃 〃 字土畑	室 町
61	272	中ノ垣外遺跡	〃 〃 字中之垣外他	縄文～室町
62		寺 原 B 遺 跡	〃 〃 字寺原	鎌 倉
63	128	西 垣 外 遺 跡	〃 津村町字西垣外	縄文・古墳以降
64	238	元 新 田 遺 跡	〃 〃 白木字元新田	縄文以降
65	240	中 新 田 遺 跡	〃 〃 白木字中新田	縄文・古墳以降
66	241	北 垣 内 遺 跡	〃 〃 字北垣内	鎌倉以降
67	242	檜 尾 遺 跡	〃 〃 字檜尾室町	室 町
68		ハノカ遺跡	〃 〃 字ハノカ	縄 文
69		山 田 遺 跡	〃 〃 字山田 他	
70	129	中 道 遺 跡	〃 円座町字中道	鎌倉以降
71	130	塚 の 上 遺 跡	〃 〃 字塚の上	縄文・鎌倉以降

古 墳

図中 番号	市町遺 跡番号	遺 跡 名	所 在 地	備 考
72	399	林 前 古 墳 群	玉城町富岡字林前	7基?
73	140～146	鉄砲塚A古墳群	〃 宮古字鉄砲塚	円墳7基
74	150～155 275～286 325～331	矢 塚 古 墳 群	〃 〃 字谷山	円墳25基
75	352～359	鉄砲塚B古墳群	〃 〃 字鉄砲塚	発掘調査
76	287	浜 塚 古 墳	〃 勝田字浜塚	円墳
77	1～6	茶白塚古墳群	〃 中楽字茶白塚・荒子	円墳6基
78	225～228	豆 塚 古 墳 群	〃 〃 字豆塚	4基?
79	7	塚 田 古 墳	〃 妙法寺字東浦	円墳
80	10・11・18・265	佐田山古墳群	〃 佐田字佐田山 他	4基
81	215・394・395	土 山 古 墳 群	〃 下田辺字土山	円墳3基
82	349	東 山 端 古 墳	〃 〃 字東山端	円墳
83	45	瀬ノ山古墳	度会町葛原・玉城町岩出	円墳
84	1	黒 土 古 墳	度会町葛原字黒土	
85	2	新 田 古 墳	〃 〃 字新田	
86	11	高 岡 古 墳	〃 大野木字高岡	円墳
87	46	丸 山 古 墳	〃 〃	
88	97～104	まこも古墳群	伊勢市栗野町字まこも	円墳8基
89	43	中 瀬 古 墳	〃 佐八町字中瀬	
90	44～52	藤 波 古 墳 群	〃 〃 字藤波	9基
91	53	高 殿 山 古 墳	〃 〃 字高殿山	
92	54	玉 田 山 古 墳	〃 〃 字玉田山	円墳
93	56	寺 原 古 墳	〃 〃 字寺原	
94	239	元 新 田 古 墳	〃 津村町白木字元新田	
95	260・261	落 合 古 墳 群	〃 〃 字山田 他	10基

経塚・中世墓・城跡

図中 番号	市町遺 跡番号	遺 跡 名	所 在 地	時 代
96	5	虫 穴 山 経 塚	度会町大野木字岡野陵	
97	379	平内山中世墓	玉城町宮古字平内山	平安～鎌倉
98	129	岩 出 城 跡	〃 岩出字城・古城 他	中 世
99	128	山 岡 城 跡	〃 山岡字村内	中 世
100	214	田 丸 城 跡	〃 田丸字城郭	中世～近世
101	172	寺 山 城 跡	伊勢市上地町字上通	室町以降



第5図 遺跡地形図 (1 : 5,000)

Ⅲ. 度会郡玉城町岩出 ^{か やま} 蚊山遺跡・^{しよ がき} 所り垣地区 (16)

1. はじめに

蚊山遺跡所り垣地区は、宮川左岸の低位段丘面に立地し、標高約16m前後である。行政区画は度会郡玉城町岩出字所り垣・塚名に所在し、現況は付近一帯水田および畑地である。調査区の西には県道伊勢・大宮線が走り、これより西側が蚊山遺跡左郡地区となる。広大な蚊山遺跡の一部であり、試掘調査

の段階で隣接する左郡地区とともに中世の良好な包含層が確認された。調査を進める段階で旧石器時代のものと思われるチャート剥片が検出されたため、中世の遺構面の調査を終了した後、下層の調査を実施した。

2. 遺 構

調査区は、ほぼ東西に横切る農道を境にして、北側をB地区、南側をA地区とした。B地区はほぼ前面が、A地区は東半分が開墾により削平されており、盛土などにより土層が攪乱を受けていた。

層序は、基本的には4層からなる。第I層は黒褐色砂質土の耕作土で、一部には灰褐色粘質土の床土が認められる。層厚は約20cm。第II層は、暗褐色砂質土で層厚は20～50cm、第III層は黒色土（黒ボク質）で、層厚は25～50cm、第IV層は明黄褐色砂質土である。このうち中世の遺物包含層は第II・III層で、第

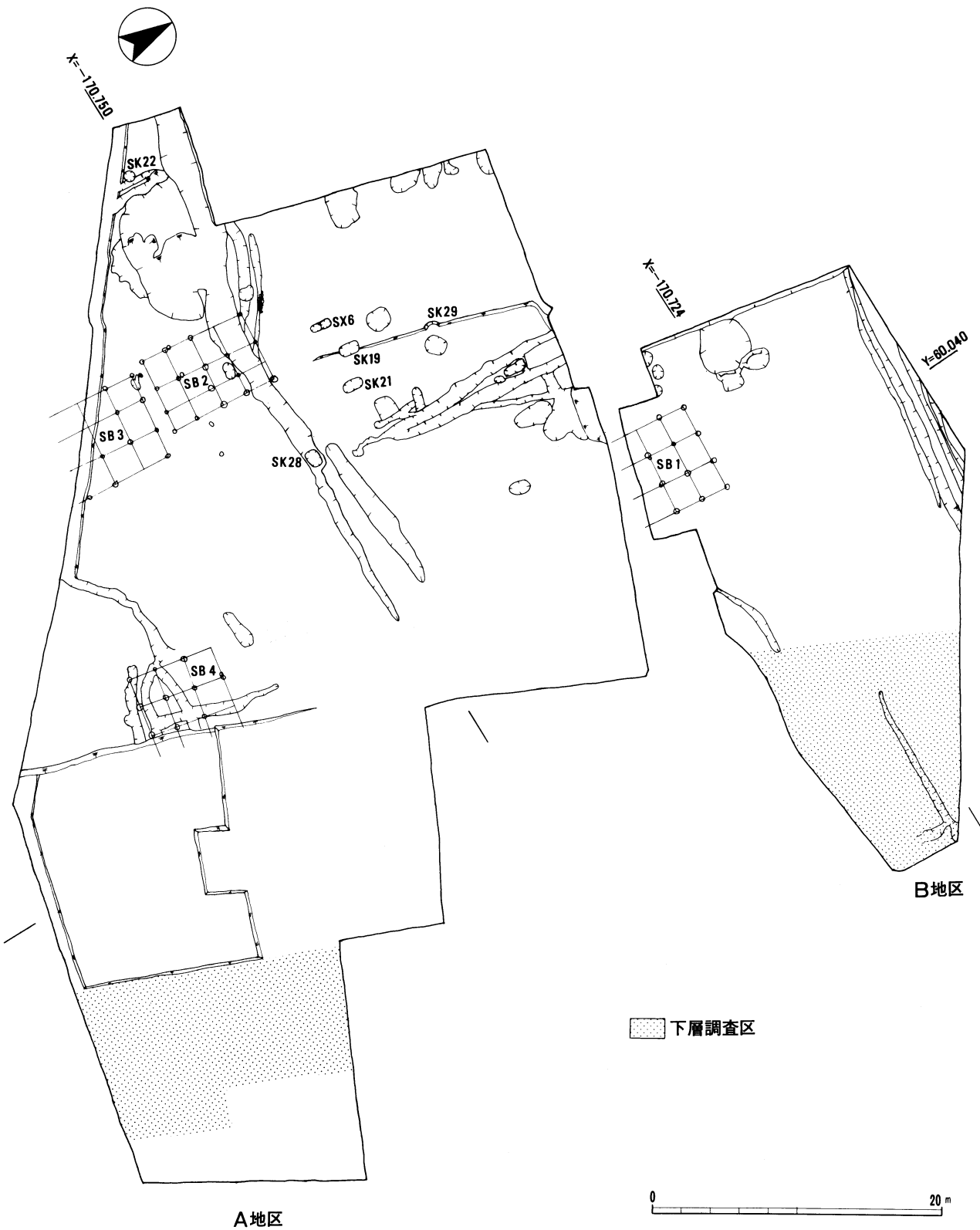
IV層（B地区は第V層）が、旧石器時代の遺物包含層である。第II層と第III層は調査区の全域には認められない。中世の遺構検出は、第IV層の上面で行った。

検出された主な遺構は、掘立柱建物4棟、中世墓1基、土坑29基、溝23条である。ほとんどの遺構は、A地区から検出されたもので、全面が削平されていたB地区から検出された遺構は少なかった。

以下、検出された遺構について、A・B地区まとめて述べる。

建物 S B	規模 (間)	棟方向	桁行 (m)	梁行 (m)	柱間寸法 (m)		時 期	備 考
					桁 行	梁 行		
1	3×2	N80°W	6.3	3.6	2.0+2.2+2.1	1.8	鎌倉前半?	総柱建物
2	4×3	N 8°W	7.45	5.15	2.0+1.75+2.0+1.7	1.3+1.7+2.15	鎌倉前半	総柱建物 根石を持つ
3	3×3	N 5°E	6.2	6.25	2.1+2.1+2.0	2.1+2.3+1.85	鎌倉前半	総柱建物 根石を持つ
4	3×2	N10°E	5.85	4.30	2.0+2.05+1.8	2.15	鎌倉前半?	総柱建物

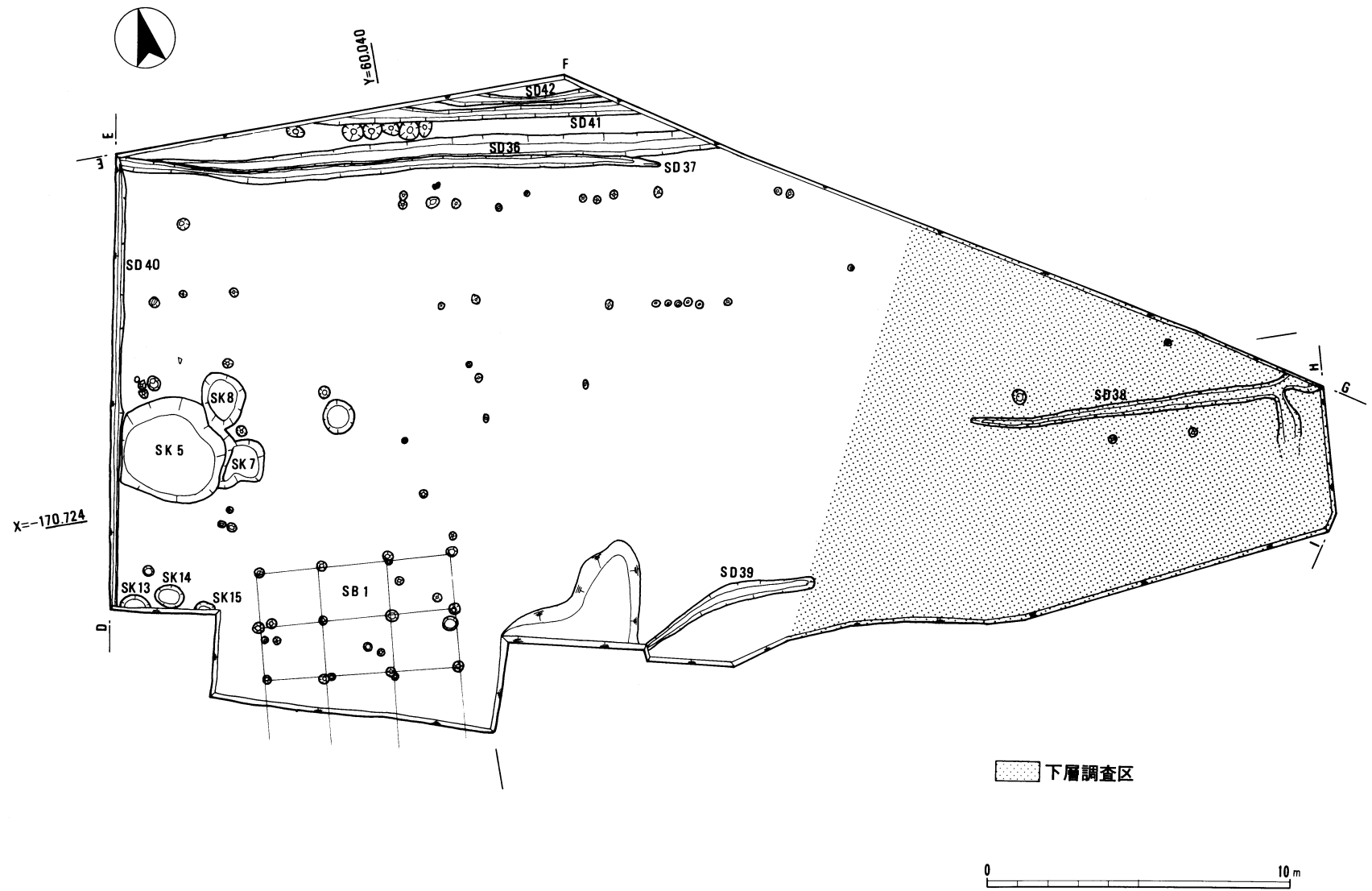
第4表 掘立柱建物一覧



第6図 遺構配置図 (1 : 400)

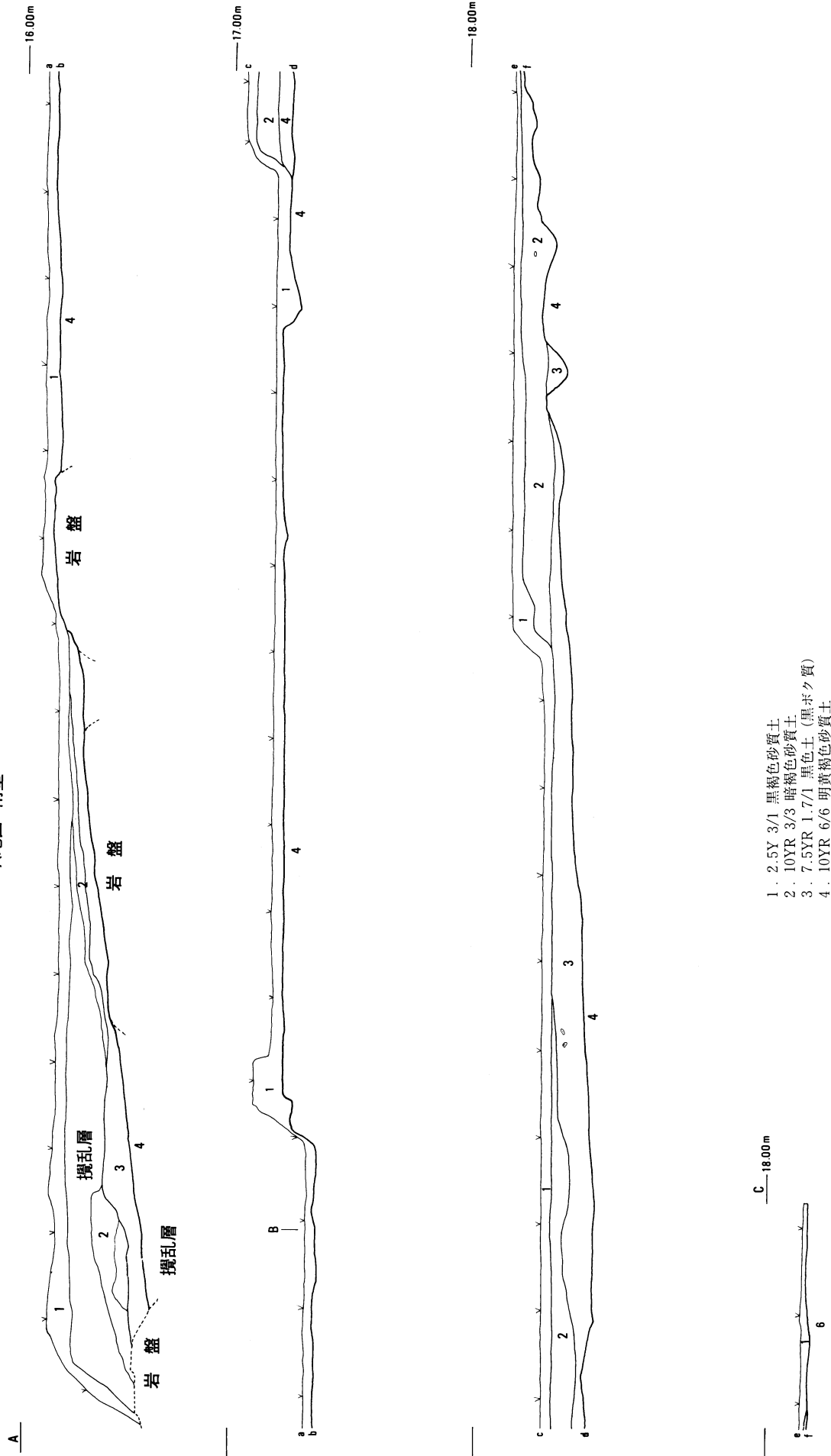


第7図 A地区遺構平面図(1:200)



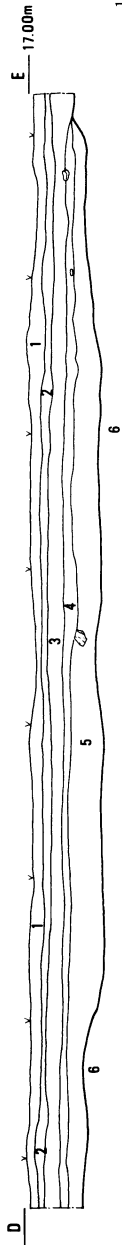
第 8 図 B 地区遺構平面図 (1 : 200)

A地区-南壁



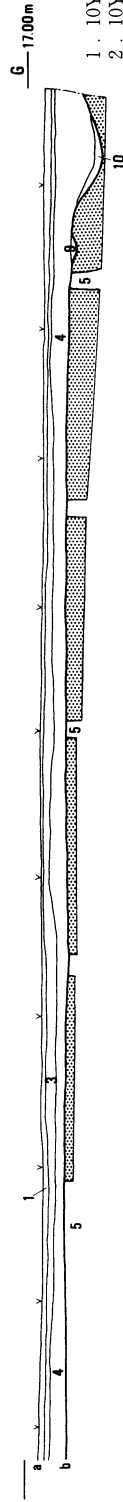
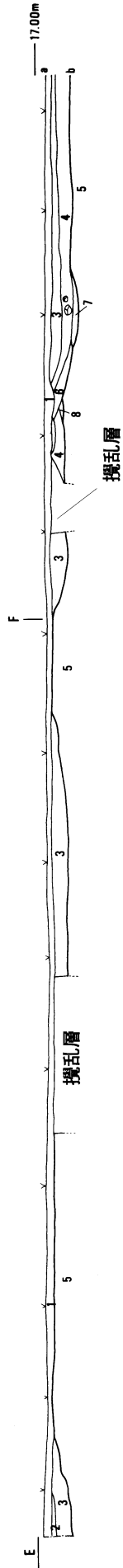
第9図 A地区土層断面図 (1:100)

B地区-西壁



1. 10YR 5/2 灰黄褐色粘質土
2. 10YR 6/4 にぶい黄褐色砂質土に10YR 5/2 灰黄褐色砂質土が混る。
3. 10YR 2/3 黒褐色砂質土
4. 10YR 4/6 褐色粘質土に10YR 1.7/1 黒色粘質土が混る。
5. 10YR 2/1 黒色粘質土
6. 2.5Y 6/6 明黄褐色砂質土

B地区-北壁



1. 10YR 5/2 灰黄褐色粘質土
2. 10YR 6/4 にぶい黄褐色砂質土に10YR 5/2 灰黄褐色砂質土が混る。
3. 10YR4/6 褐色粘質土に10YR 1.7/1 黒色粘質土が混る
4. 7.5YR 3/4 暗褐色砂質土
5. 2.5Y 6/6 明黄褐色砂質土
6. 10YR 2/3 黒褐色砂質土に10YR 5/6 黄褐色粘質土が混る。
7. 10YR 2/3 黒褐色粘質土
8. 10YR 3/3 暗褐色砂質土に10YR 5/6 黄褐色粘質土が混る。
9. 10YR 2/2 黒色粘質土
10. 10YR 2/1 黒色粘質土

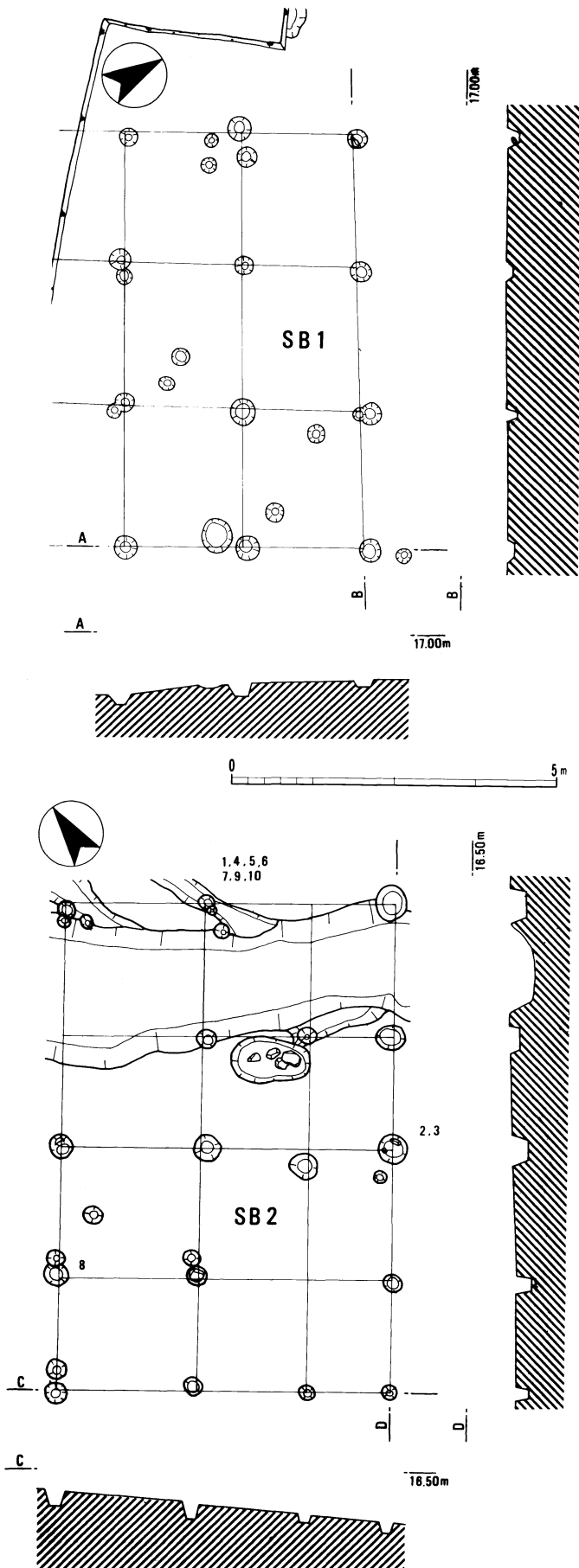
B地区-東壁

1. 10YR 5/2 灰黄褐色粘質土
2. 10YR 4/6 褐色粘質土に 10YR 1.7/1 黒色粘質土が混る。
3. 7.5YR 3/4 暗褐色砂質土
4. 2.5Y 6/6 明黄褐色砂質土
5. 2.5Y 4/2 暗灰黄色砂質土 (拳大の礫が混入)

下層調査範囲



第10図 B地区土層断面図 (1:100)



第11図 SB1・2実測図(1:100)
〔図中の数字は柱掘形出土の遺物番号〕

(1) 平安時代末葉の遺構

A. 中世墓

S X 6 A地区の西端近くで検出された長軸1.2m、短軸0.8mの隅丸方形の土坑で、深さは検出面より15cmである。埋土は黒褐色土で、埋土中から完形の土師器小皿(17~20)、山茶碗(21)、刀子(22)が出土した。

B. 土坑

S K 16 A地区、S X 6の北東2.6mに位置する径1.6mの円形の土坑で、深さは検出面より1.0mである。埋土は黒褐色土で、埋土中から土師器鍋(33)陶器甕(34)、土師器片が少量出土した。

S K 18 S B 3の北東端の柱掘形に切られる形で検出された、長軸1.0m、短軸0.5mの不定形な土坑で、深さは検出面より10cmである。埋土は黒色土で、埋土中からロクロ土師器杯(35)、土師器小皿(36)・皿(37)が出土した。

C. 溝

S D 45 S D 44の東に並行して走る短い溝でS K 20に切られる形で検出された。幅60cm、深さは、検出面より20cmで、南端は調査区外にのびている。埋土中から土師器皿(72)が出土した。

(2) 鎌倉時代前半の遺構

A. 掘立柱建物

S B 2 桁行4間(7.45m)×梁行3間(5.15m)、棟方向がN 8° Wの南北棟の総柱建物で、柱間寸法は桁行が2.0m+1.75m+2.0m+1.7mで梁行が1.3m+1.7m+2.15mと不揃いである。柱掘形は、径20~50cmの円形である。柱掘形内に扁平な石が残るものが1箇所ある。柱掘形から土師器小皿(1~6)・皿(7~10)、山茶碗片、青磁片、石鍋片が出土した。

S B 3 南西部分が調査区外のため、桁行3間(6.2m)×梁行3間(6.25m)分が確認できた。棟方向N 5° Eの南北棟の総柱建物と思われ、柱間寸法は桁行が2.1m+2.1m+2.0mで、さらに調査区外(南)にのびる可能性もある。梁行は2.1m+2.3m+1.85mである。柱掘形は、径20~40cmの円形で、柱掘形内に根石が残るものが4箇所、柱掘形が検出

できず根石のみを検出したものが1箇所あった。また、北側3mの位置に東西に並ぶピットは、柵列の可能性もある。柱掘形から土師器小皿(11)・皿(12)、山皿(13)、鉄釘(131)、瓦片が出土した。

B. 土坑

S K 24 S K 21の東1.5mに位置する。長軸1.7m以上、短軸1.3mの隅丸の方形土坑と思われる。東端がS D 58に切られている。深さは、検出面より15cmである。埋土は暗褐色土で、埋土中から土師器鍋(45)、山茶碗(46・47)が出土した。

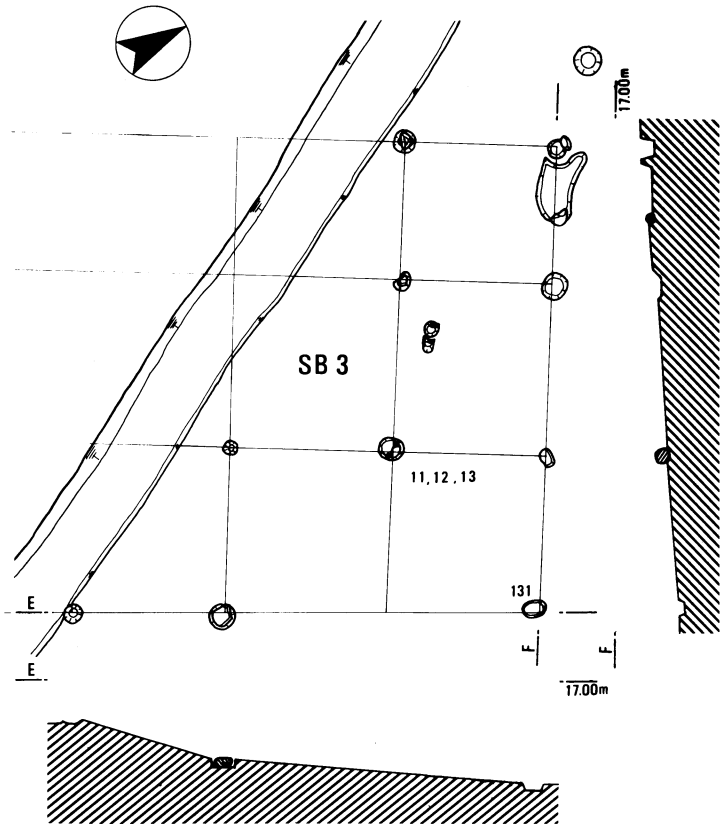
S K 31 S X 6の南西5mに位置し、S D 53の上面で検出された長軸1.2m、短軸1.0mのやや歪んだ円形の土坑である。埋土中から、土師器皿(50・51)や小皿の細片、山皿片が出土した。

C. 溝

S D 52 S D 53を切り、S D 48に切られる形で検出された短い溝で、幅50cm、深さは検出面から10cm前後である。埋土は黒色土で、埋土中から土師器皿(80)が出土した。

土師器鍋の細片が少量出土した。

S K 29 S K 23のすぐ西に位置する。東半分が削平



(3) 鎌倉時代後半の遺構

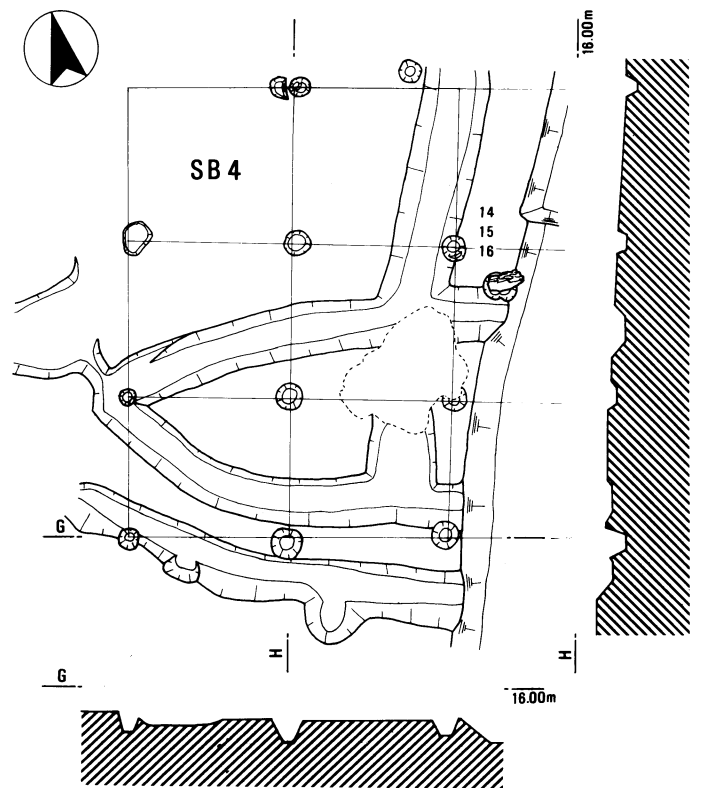
A. 土坑

S K 5 B地区西端中央部で検出された径約3.6mのほぼ円形の土坑である。検出面より50~60cmで、湧水がみられた。埋土は暗褐色土で、埋土中より土師器小皿(23)・皿(24・25)、山茶碗(26・27)土師器片、陶器片、瓦片などが出土した。

S K 9 A地区西端、S X 6の北西約3mに位置する。長軸2.4m以上、短軸2.0mの楕円形の土坑と思われる。深さは検出面より30cmである。埋土は黒色土で、埋土中から土師器小皿(28)・皿(29)、山皿(30)、山茶碗(31)、鉄釘(132)土師器片、山茶碗片、青磁片などが出土した。

S K 21 S K 19の南東2mに位置する長軸1.4m、短軸0.7mの隅丸方形の土坑で、深さは検出面より10cmである。埋土は暗褐色土で、埋土中から土師器皿(38)が出土した。

S K 28 A地区の中央部やや西より、S D 50の検出後、その底面において検出された長軸1.2m、短軸0.9mの隅丸方形の土坑である。埋土は暗褐色土で埋土中から、ほぼ完形の土師器皿(49)や



第12図 SB 3・4 実測図(1:100)
〔図中の数字は柱掘形出土の遺物番号〕

を受けているが、径1.0mの円形の土坑と思われる。深さは検出面より50cmで、埋土は黒色土である。埋土中から陶器小壺（48）が出土した。

(4) 室町時代前半の遺構

A. 土坑

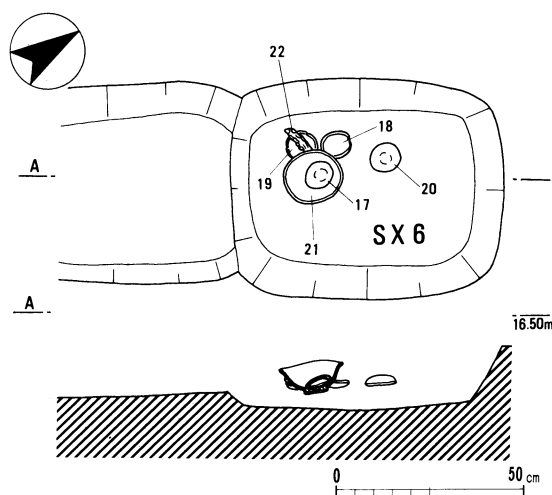
S K 13 B地区の南西端で検出された。長軸1.0m以上、短軸0.4mの楕円形の土坑と思われる。深さは検出面より25cmである。埋土は暗褐色土で、埋土中から土師器鍋（32）、土師器皿の細片、山茶碗片、瓦片などが出土した。

S K 22 A地区の南西端、S K 20の西に近接して検出された。径0.8mの円形の土坑で、深さは検出面より10cmである。埋土は黒褐色土で、埋土中から土師器小皿（39～42）・皿（43）・鍋（44）や土師器の細片が多量に出土した。

B. 溝

S D 40 B地区の西端に南北に延びる溝で、溝の西側と南北端が調査区外のため検出できなかった。幅15cm、深さは検出面より25～40cmである。埋土中から、土師器皿（53）や土師器、山茶碗の細片、瓦片などが出土した。

S D 43 A地区の西端から東に延び、中央部やや東よりで途切れる調査区内で最も規模の大きな溝である。幅0.5～2.5m、深さは検出面より0.2～1.0mである。埋土中から土師器小皿（54・55）・皿（56～64）・鍋（65・66）、山茶碗（67～70）、陶器練鉢（71）青磁片、砥石片などが出土した。



第13図 SX 6 実測図（1：20）

S D 48 A地区北端の中央部から南に延びる溝で、S D 49を切る形で検出された。幅0.4～1.2m、深さは、検出面より20～40cmである。埋土中から土師器鍋（73）や土師器片、山茶碗片、青磁片などが出土した。

S D 49 S D 48の東に、ほぼ並行して南北に延びる溝で南端をS D 48に切られている。幅0.5～1.0m、深さは検出面より20～40cmである。埋土中から土師器小皿（74）・皿（75～78）、山茶碗（79）、土師器鍋の細片が出土した。

S D 58 A地区中央部やや北より、S K 28のすぐ北からS D 43に、ほぼ並行して東に延びる溝で、幅1.0～1.6m、深さは検出面より15～20cmである。埋土は黒色土で、埋土中から、土師器皿（81）、山茶碗片、青磁片が出土した。

(5) 時期不明の遺構

A. 掘立柱建物

S B 1 桁行3間（6.3m）×梁行2間（3.6m）、棟方向がN80°Wの東西棟の総柱建物と思われる。柱間寸法は、桁行が2.0+2.2+2.1m、梁行が1.8m等間でさらに調査区外にのびる可能性がある。柱掘形は、径20～40cmの円形である。出土遺物はなかった。

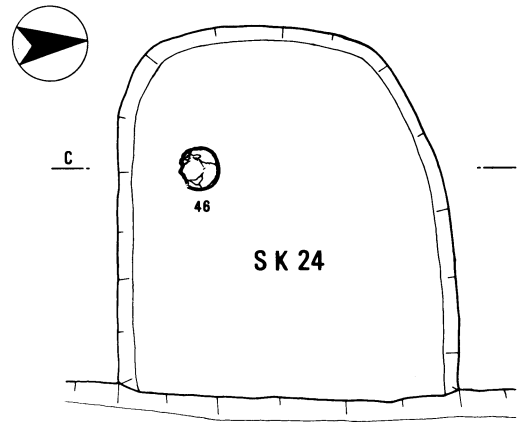
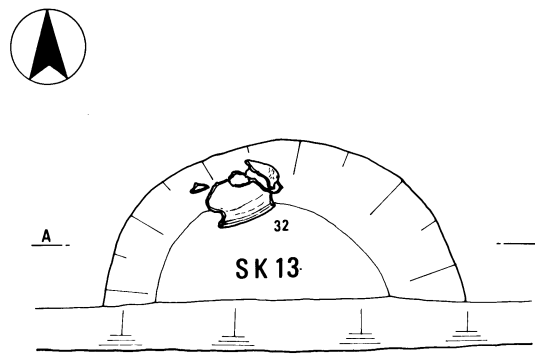
S B 4 桁行3間（5.85m）×梁行2間（4.30m）棟方向がN10°Eの南北棟の総柱建物と思われる。柱間寸法は、桁行が2.0m+2.05m+1.8m、梁行が2.15mの等間で、さらに東にのびる可能性がある。柱掘形は、径20～40cmの円形である。柱掘形から土錘（14～16）が出土した。

B. 土坑

S K 10 S K 9の北2.4mに位置する。長軸2.2m以上、短軸0.9mの楕円形の土坑と思われる。深さは検出面より20cmである。埋土は黒色土で、埋土中から土師器片が少量出土した。

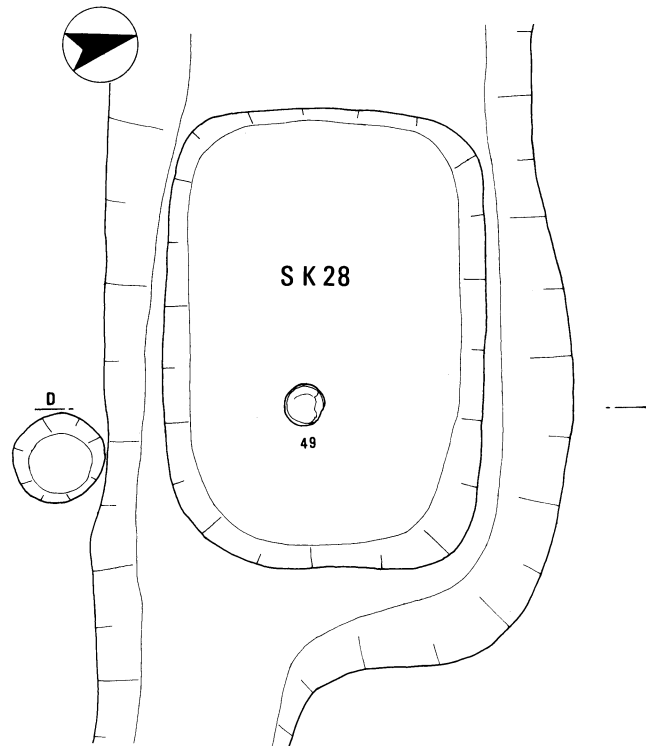
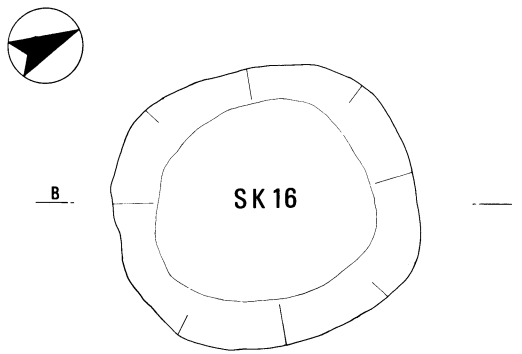
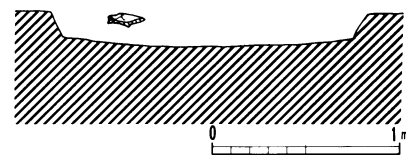
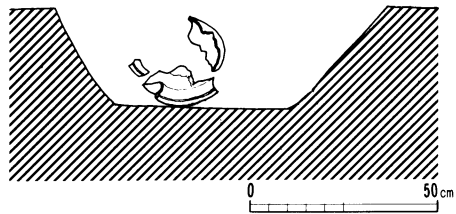
S K 11 S K 10の北に隣接して検出された。長軸1.6m以上、短軸1.4mの楕円形の土坑と思われる。深さは検出面より30cmである。埋土中から陶器片が1片のみ出土した。

S K 14 S K 13の東0.3mに位置する長軸1.0m、短軸0.8mの楕円形の土坑で、深さは検出面より30cmである。埋土は暗褐色土で、埋土中から土師器皿片・



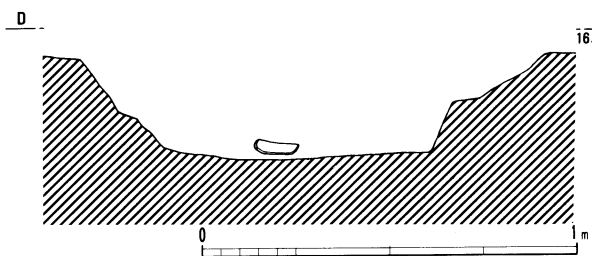
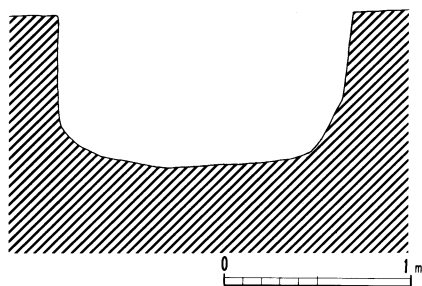
A 16.60m

C 16.40m



B 16.20m

D 16.60m



第14図 SK 13・16・24・28実測図 (SK 13・28は 1 : 20, SK 16・24は 1 : 40)

鍋片などが少量出土した。

S K 15 S K 14の東0.4mに位置する。長軸70cm以上、短軸30cmの楕円形の土坑と思われる。深さは検出面より20cmである。埋土は暗褐色土で、埋土中から土師器片が微量出土した。

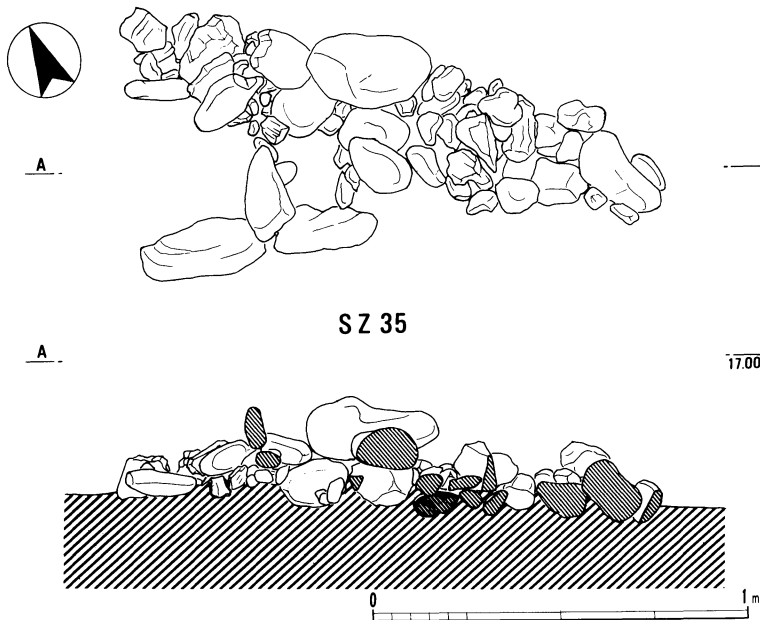
S K 19 S X 6の北東2mに位置する長軸1.4m、短軸0.7mの隅丸方形の土坑で、深さは検出面より65cmである。埋土は黒褐色土で、埋土中から土師器皿・鍋の細片が出土した。

S K 20 A地区の南西部でS D 50に切られる形で検出された長軸9.0m、短軸5.0mの歪んだ楕円形の土坑で、深さは検出面より45~85cmである。埋土は暗褐色土で、埋土中から土師器小皿・皿の細片が少量出土した。他に、高杯の柱状部や瓦片が各1点出土した。

S K 30 A地区の北端中央部付近に位置する。S D 57を切る形で検出された長軸1.6m以上、短軸0.7mの楕円形の土坑である。深さは検出面より25cmである。埋土は黒褐色土で、埋土中から土師器の細片が出土した。

S K 32 A地区の西北端に位置する。長軸1.5m以上、短軸0.6m以上の楕円形の土坑と思われる。深さは検出面より20cmで、埋土は暗褐色土である。埋土中から鉄鍋(52)、土師器片、山茶碗片が出土した。

C. 集石



第15図 SZ 35実測図 (1 : 20)

S Z 35 S D 47の上面で検出した集石で、長軸1.5m、短軸0.8mで、平面形はY字形を呈する、10~30cm大の河原石が集められたような状態で検出されたが、遺構とすべきかどうかは断定できない。下部に掘形は検出できなかったが、土師器、山茶碗、陶器の小片が出土した。

D. 溝

S D 36 B地区の北西部から東に延びる細い溝で、北西端をS D 37に切られ、東端は調査区外に延びる。幅20~70cm、深さは検出面より10cm程度と浅い。埋土は黒色土に明褐色土が混じる。埋土中から土師器の細片、山茶碗片などが出土した。

S D 37 B地区の北西端からS D 36にそって東に延びる細い溝である。B地区北壁の3m手前で途切れる。幅20~40cm、深さは4~20cmである。埋土は暗褐色土に明褐色土が混じる。埋土中から土師器片、山茶碗片、陶磁器片が少量出土した。

S D 38 B地区の東部にあり、東西にのびる細い溝である。東端は調査区外にのびている。幅20~60cm、深さは検出面より15cmである。埋土は暗褐色土で、埋土中から土師器片が微量出土した。

S D 44 A地区の南西端、S K 20の北に隣接しS D 43に直交する形で検出された。幅50~90cm、深さは検出面より10cmで、南端は調査区外に延び一部をS K 22に切られている。埋土は暗褐色土で、埋土中から土師器皿・鍋の細片、青磁片、陶器片、鉄釘(133)などが出土した。

S D 46 A地区の南西部からS D 47に並行して東に延び、その東端がS D 49に切られる形で検出された。幅40~80cm、深さは検出面より20cmである。埋土中から土師器小皿・皿・鍋の細片が少量出土した。

S D 53 S D 51、52に両端を切られる形で検出された。幅40cm、深さは検出面より5cm前後の浅く、短い溝である。埋土は黒褐色土で、埋土中から土師器皿の細片が微量出土した。

S D 54 A地区の中央部南より、S B 4の南辺を東西に延びる幅50~80cm、検出面からの深さが、20cm前後の短い溝である。埋土中から土師器片、陶器片が微量出土した。

以上の遺構の他、出土遺物がなく、性格不明の土坑

を10基、溝を9条検出した。

3. 遺物

遺物は、整理箱に60箱程度出土した。平安時代末葉から室町時代前半までの土器を中心として、石製品、瓦、鉄製品などがある。その中でも出土量の多かったものは、鎌倉時代の土師器、山茶椀である。

(1) 平安時代末葉の遺物

A. S B 2 出土の土器

土師器小皿 (1~3) いずれも器壁は厚く、底部に丸みを持つ。

B. S X 6 出土の遺物

土師器小皿 (17~20) いずれも完形である。

山茶椀 (21) 口縁部の外反が強く、体部に丸みを持つ。口縁部の3方向に輪花がみられ、灰釉漬け掛けが、口縁部から体部にかけて施されている。「二」の墨書が、体部外面に2箇所、底部外面に1箇所みられる。藤澤編年のⅡ段階4型式^①に相当するものであろう。

刀子 (22) 残存状態は良好で木質が茎部に付着している。残存長11.0cmである。

C. S K 16 出土の土器

土師器鍋 (33) 口縁部は短く外反する。口縁端部は丸く肥厚し、内側に折り返しが認められる。

陶器甕 (34) 口縁部のみ3分の1残存している。常滑産と思われる。

D. S K 18 出土の土器

土師器杯 (35) ロクロ土師器である。

土師器小皿 (36)・**皿** (37) いずれも底部に丸みを持ち、器壁が厚い。

E. S D 45 出土の土器

土師器皿 (72) 口縁端部が外反し、器壁が厚い。

F. 包含層出土の土器

土師器小皿 (82~85) 口径にばらつきがあるが、いずれも底部に丸みを持ち、口縁端部は丸く器壁は厚い。

土師器皿 (87~89) 口径にばらつきはあるが、いずれも底部に丸みを持ち、器壁は厚い。

土師器杯 (96) ロクロ土師器である。

土師器椀 (97) ロクロ土師器である。第Ⅲ層上面で伏せた状態で出土した。ほぼ完形である。

山皿 (105・106) 藤澤編年のⅡ段階4型式に相当するものであろう。

山茶椀 (112) 口縁部から体部にかけて内外面に灰釉漬け掛け。藤澤編年のⅡ段階4型式に相当するものであろう。

(2) 鎌倉時代前半の遺物

A. S B 2 出土の土器

土師器小皿 (4~6) 4・6は、いずれも器壁が厚い。5は、4・6に比べ器壁がやや薄く、底部に丸みを持つ。

土師器皿 (7~10) いずれも口縁部が強くヨコナデされ、器壁は厚い。

B. S B 3 出土の遺物

土師器小皿 (11)・**皿** (12) いずれも口縁部が強くヨコナデされ、口縁端部は丸くおさまる。

山皿 (13) 底部外面に糸切り痕が残し、内面に自然釉が付着。

鉄釘 (131) S B 3の北東隅のピットより出土した。残存長3.8cmで、先端部が欠失している。

C. S K 5 出土の土器

土師器皿 (24) 口縁部が弱く内彎し、口縁端部は丸くおさまる。外面に粘土紐接合痕が残る。

D. S K 9 出土の遺物

土師器小皿 (28) 器壁が厚く、口縁端部はとがりぎみである。外面に粘土紐接合痕が残る。

土師器皿 (29) 口縁部が、やや内彎し口縁端部は先細りぎみである。

山皿 (30) 底部外面に糸切り痕が残る。

鉄釘 (132) 残存長6.2cm、先端部が欠失している。

E. S K 24 出土の土器

土師器鍋 (45) 口縁部のみ残存する。新田編年の5類^②、伊藤編年の第1段階^③にあたる。

山茶椀 (46) 口縁部を上にした状態で出土した。体部は直線的で、口縁部はわずかに外反する。

F. S K 31出土の土器

土師器皿 (50・51) いずれも口縁部に強いヨコナデが施され、器壁は厚い。

G. S D 43出土の土器

土師器小皿 (54・55) 法量・器形ともに異なるが、いずれも器壁が厚く胎土も類以している。55は、内面に布目痕が残る。

土師器皿 (56・57) いずれも口縁部に強いヨコナデが施され、器壁は厚い。

山茶椀 (70) 体部は直線的で、口縁部がわずかに外反する。

H. S D 52出土の土器

土師器皿 (80) 口縁部に強いヨコナデが施され器壁が厚い。

I. 包含層出土の土器

土師器皿 (90～92) (90) は、体部から口縁部にかけて直線的で口縁端部がやや尖りぎみであり、器壁は厚い。(91・92) は、いずれも弱く内彎し器壁は厚い。

土師器鍋 (99～102) いずれも新田編年の5類、伊藤編年の第1段階にあたる。

山皿 (107) 底部外面に糸切り痕が残る。藤澤編年のⅢ段階5型式^④に相当するものであろう。

山茶椀 (113～116) (113) は、体部に丸みを持ち、口縁部が外反する。(114) は、口縁部に自然釉が掛かり、内面底部に重ね積み焼成痕が残る。体部は直線的で口縁部が少し外反する。(115) は、体部が直線的で口縁部が外反している。高台端部に粗殻痕が残る。(116) は、体部が直線的で、口縁部は少し外反している。高台端部に粗殻痕が残る。いずれも藤澤編年のⅢ段階5型式に相当するものであろう。

青磁皿 (117・118) 同安窯系青磁皿である。

青磁椀 (119・120) 龍泉窯系青磁椀である。

(3) 鎌倉時代後半の土器

A. S K 5 出土の土器

土師器小皿 (23) 器壁が薄く、口縁端部は細くなる。

土師器皿 (25) 器壁が薄く、口縁端部は細くなる。直線的に斜め上方に立ち上がる口縁部を持つ。

B. S K 21 出土土器

土師器皿 (38) 口縁部が強く内彎し、口縁端部は尖っている。器壁は薄い。

C. S K 28 出土の土器

土師器皿 (49) ほぼ完形で、口縁部を上にした状態で出土した。口縁部が内彎し、底部は平底である。粘土紐接合痕が残る。

D. S K 29 出土の土器

鉄釉小壺 (48) 黒茶色の光沢ある釉が、底部を除いてほぼ全面にかかる茶入れである。瀬戸産であろうと思われる。

E. 包含層出土の土器

土師器皿 (93) 口縁部は内彎ぎみに立ち上がり口縁端部は丸くおさまる。

(4) 鎌倉時代の土器

A. S K 5 出土の土器

山茶椀 (26・27) いずれも底部のみ残存。

B. S K 9 出土の土器

山茶椀 (31) 体部を高台部周辺にそって打ち欠いた痕跡が認められる。

C. S K 24 出土の土器

山茶椀 (47) 体部下半にやや丸みをもつ。

D. S D 43 出土の土器

山茶椀 (67～69) (67) は、高台部の胎土が異なる。

陶器練鉢 (71)

E. S D 49 出土の土器

山茶椀 (79)

F. 包含層出土の土器

山茶椀 (108～111) (110) は、底部外面に「米」の墨書が記されている。(111) の底部外面にも墨書が記されている。底部が完存でないため判読できないが、「ほ」、「促」、「注」、「住」の可能性はある。

(5) 室町時代前半の土器

A. S K 13 出土の土器

土師器鍋 (32) 体部より外反してのびる口縁部は比較的長く、内外面ともヨコナデされる。端部は折り返され、ヨコナデされる。体部外面にはハケメが横方向に施されている。体部外面の下半には帯状に幅の狭いヘラケズリが施される。

B. S K 22 出土の土器

土師器小皿 (39~42) いずれも口縁部を上にした状態で出土した。(39)は完形、(40)はほぼ完形で、内外面に油煙痕が付着している。分量にばらつきがあるが、器壁はいずれも薄い。

土師器皿 (43) 口縁部を上にした状態で出土した。口縁部は内彎し、直角に近い立ち上がりをする。器壁は非常に薄い。

土師器鍋 (44) 体部より外反してのびる口縁部は、内外面ともヨコナデされる。口縁端部は折り返され、体部外面にハケメが横方向に施される。

C. S D40出土の土器

土師器皿 (53) 口縁部は内彎し、直角に近い立ち上がりをする。器壁は非常に薄い。

D. S D43出土の土器

土師器皿 (58~64) いずれも、口縁部は内彎し、直角に近い立ち上がりをする。器壁は非常に薄い。

土師器鍋 (65) 口縁部のみ残存。内外面ヨコナデされ、口縁端部は折り返されるが、それは小さい。

土師器鍋 (66) 体部から「く」の字状にのびる口縁部は、内外面ともにヨコナデされ、やや内彎する。頸部内面に稜線が見られる。口縁端部は折り返され強いヨコナデが施される。体部外面に、ハケメが横方向に、体部下半にはヘラケズリが施される。

E. S D48出土の土器

土師器鍋 (73) 口縁部のみ残存する。口縁端部は折り返され、強いヨコナデが施される。

F. S D49出土の土器

土師器小皿 (74) 器壁が薄く、口縁端部は尖る。

土師器皿 (75~78) 口縁部が内彎し、直角に近い立ち上がりをする。器壁は、非常に薄い。

G. S D58出土の土器

土師器皿 (81) 口縁部が内彎し、直角に近い立ち上がりをする。器壁は非常に薄い。

H. 包含層出土の土器

土師器皿 (94・95) いずれも口縁部が内彎し、直角に立ち上がりをする。器壁は非常に薄い。

陶器合子 (121) 瀬戸産であろうと思われる。

(6) その他の中世の遺物

A. S B 4 出土の土製品

土錘 (14~16) S B 4 の東側の柱穴列の北から

2番目の柱掘形から出土した。(14)は、残存長6.3cm、最大径3.0cmでほぼ完形である。(15)は、残存長5.4cm、最大径2.5cmで両端が欠失している。(16)は、残存長5.2cm、最大径2.7cmで先端部が欠失している。

B. S D44出土の鉄製品

鉄釘 (133) 残存長6.3cm、先端部が欠失している。

C. ピット出土の鉄製品

鉄釘 (134) 残存長6.5cm、先端部、頭部が欠失している。

D. S K32出土の鉄製品

鉄鍋 (52) 腐食によりもろくなっており、残存状態は良くなかった。時期は異なるが、愛知県の公文遺跡で出土した土師器甕^⑤に器形が類似している。

E. 包含層出土の土器

土師器小皿 (86) 室町時代後半のものと思われる。

土師器羽釜 (103・104) (104)は、ミニチュアで口縁部、鐙部上面に沈線が施されている。

土師器火鉢 (123・124) いずれも土師質であるが、瓦器火鉢を模倣したものである。瓦器火鉢が火を受けて土師質になったものとも考えられる。

陶器卸し皿 (125) 室町時代のものと思われる。

F. 包含層出土の石製品

砥石 (122) 数点出土した砥石の中で最も残りの良いものである。

G. 包含層出土の鉄製品

小刀 (126・127) (126)は、残存長31.4cm、切先、茎部の端部を欠失。(127)は、残存長23.9cm、切先、茎部の大半を欠失。ともに目釘孔が認められる。

刀子 (128) 身部の一部が残存、残存長5.8cm。

鉄製利器 (129) 残存長9.8cmである。

鉄製鎌 (130) 残存長34.5cmで身部、茎部の一部が欠失。

鉄釘 (135~138) A地区の北東部包含層で方形の4つの頂点に頭部を上に向けた状態で出土した。(135・136)は、それぞれ残存長4.5cm、2.7cmで、いずれも先端部を欠失している。(137・138)は、いずれも身部片のみで、残存長4.5cm、5.2cmである。

報告書 番号	出土位置	種類 (器種)	器形	法量 (cm)		観察事項		色調	胎土	焼成	残存度	備考	実測 No.
				口径	器高	成形・調整技法の特徴	観察事項						
1	H12 P5 SB2	土師器	小皿	7.6	1.5	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。		橙 7.5YR7/6	砂粒含	良好	完形		070
2	H13 P2 SB2	土師器	小皿	8.6 (?)	1.7	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。		にぶい橙 10YR7/3	砂粒含	良好	1/2		067
3	H13 P2 SB2	土師器	小皿	8.6 (?)	1.7	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。		浅黄橙 7.5YR8/4	砂粒含 1mm長石	良好	1/4		066
4	H12 P5 SB2	土師器	小皿	8.4 (?)	-	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。		浅黄橙 7.5YR8/4	砂粒含	良好	口縁部 1/4		076
5	H12 P5 SB2	土師器	小皿	8.6 (?)	1.1	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。		浅黄橙 7.5YR8/4	砂粒含	良好	1/2		071
6	H12 P5 SB2	土師器	小皿	8.0 (?)	1.3 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。		浅黄橙 7.5YR8/4	砂粒含	良好	口縁部 1/3		073
7	H12 P5 SB2	土師器	皿	13.4 (?)	3.3 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。		浅黄橙 7.5YR8/4	砂粒含	良好	口縁部 1/4		069
8	G12 P3 SB2	土師器	皿	15.0 (?)	-	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。		浅黄橙 7.5YR8/4	砂粒含	良好	口縁部 1/6		068
9	H12 P5 SB2	土師器	皿	15.4 (?)	3.4 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。		灰白 10YR8/2	粗砂多含	良好	1/6		075
10	H12 P5 SB2	土師器	皿	15.4 (?)	3.3 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。		浅黄橙 7.5YR8/4	砂粒多含	良好	1/6		074
11	F14 P1 SB3	土師器	小皿	9.4 (?)	1.6 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。		浅黄橙 10YR8/3	砂粒多含	良好	3/5	口縁部に 油煙痕付着。	079
12	F14 P1 SB3	土師器	皿	14.2 (?)	2.8 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。		にぶい褐 7.5YR6/3	砂粒含	良好	4/5	内外面に煤付 着。	087
13	F14 P1 SB3	陶器	山皿	底径：3.6 (?)		内外面クロコナデ。 底部外面糸切痕。		灰白 2.5YR7/1	砂粒含	良好	底部	内面に自然釉 斑点状に付着。	078
14	G13 P6 SB4	土製品	土錘	長さ：6.3		最大径3.0cm 重さ55.00g 穿孔径0.9cm	器面ナデ・先端が尖り断面円 形を呈す。	橙 7.5YR7/6	粗砂含	良好	完形		080
15	G18 P6 SB4	土製品	土錘	残存長：5.4		最大径2.5cm 重さ29.88g 穿孔径1.0cm	器面ナデ・先端が尖り断面円 形を呈す。	浅黄橙 10YR8/4	粗砂含	良好	面端欠		082

第5-1表 出土遺物観察表

報告書 番号	出土位置	種類 (器種)	器形	法量 (cm)		観察事項		色調	胎土	焼成	残存度	備考	実測 No.
				口径	器高	成形・調整技法の特徴	観察事項						
16	G18 SB4	土製品	土錘	残存長: 5.2	最大径2.7cm 穿孔径0.7cm	器面ナデ・先端が尖り断面円形を呈す。	浅黄橙 10Y R8/4	粗砂含	良好	先端部 欠失			081
17	I12 SX6	土師器	小皿	8.6	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。		にぶい黄橙 10Y R8/3	粗砂含	良好	完形			052
18	I12 SX6	土師器	小皿	8.8	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。		淡黄 2.5Y R8/3	粗砂含	良好	ほぼ完形			054
19	I12 SX6	土師器	小皿	9.1	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。		淡黄 2.5Y R8/3	粗砂含	良好	ほぼ完形			053
20	I12 SX6	土師器	小皿	9.2	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。		にぶい黄橙 10Y R7/3	粗砂含	良好	完形			055
21	I12 SX6	陶器	山茶碗	16.8	内外面ロクロナデ。 貼り付け高台。	口縁部の三方向に輪花。 灰釉漬掛け(三箇所)。	胎) 灰白 10Y R7/1 釉) 灰白 7.5Y8/1	微砂粒含	良好	完形		墨書「二」あり。 高台端部に 初般痕。	051
22	I12 SX6	鉄製品	刀子	残存長: 11.1	鍛造・断面二等辺三角形を呈す。					良好		茎部に木質が 残存。	056
23	P31 SK5	土師器	小皿	8.2 (?)	1.1 (?)	内面ナデ。 外面未調整。	淡黄 2.5Y R8/3	砂粒含 1mm長石	良好	1/4			059
24	P31 SK5	土師器	皿	14.2 (?)	2.3 (?)	内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 外面未調整。	浅黄橙 10Y R8/3	砂粒含 2mm長石	良好	1/5		粘土紐接合痕 あり。	057
25	P31 SK5	土師器	皿	10.8 (?)	2.4 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	淡黄 2.5Y R8/3	砂粒含	良好	1/6			058
26	P31 SK5	陶器	山茶碗	口径: 6.2 (?)		内外面ロクロナデ。 底部外面糸切痕。	灰白 2.5Y R7/1	1~2mm 長石多含	良好	高台 1/3			061
27	P31 SK5	陶器	山茶碗	口径: 8.4 (?)		内外面ロクロナデ。 底部外面糸切痕。	灰黄 2.5Y R7/2	砂粒含	良好	高台 1/4		高台がしっか りしている。	060
28	J10 SK9	土師器	小皿	6.8	1.2	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	浅黄橙 10Y R8/3	砂粒含	良好	4/5		粘土紐接合痕 あり。	083
29	J10 SK9	土師器	皿	11.8 (?)	2.4 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	浅黄橙 10Y R8/3	砂粒、金 雲母含	良好	口縁部 1/5			086
30	J10 SK9	陶器	山皿	8.0 (?)	1.5 (?)	内外面ロクロナデ。 底部外面糸切痕。	灰白 2.5Y R8/1	砂粒含	良好	1/4			085

第5-2表 出土遺物観察表

報告書 番号	出土位置	種類 (器種)	器形	法量 (cm)		観察事項	色調	胎土	焼成	残存度	備考	実測 No.
				口径	器高							
31	J10 SK9	陶器	山茶碗	口径: 8.0 (?)	—	内面クロコナデ。 底部外面糸切痕後ナデ消し。	灰白 10Y R7/1	砂粒含	良好	高台 1/4	体部を打ち欠 いた痕跡あり。	084
32	O13 SK13	土師器	鍋	22.5 (?)	—	口縁部ヨコナデ、内面ナデ。 頸部指オサエ。胴上半部ハケメ。胴下半部ヘラケズリ。	淡黄色 2.5Y R8/3	1~2mm 粗砂含	良好	口縁部 2/3 胴部1/2	外面全体に煤 付着。	088
33	K12 SK16	土師器	鍋	19.0 (?)	—	口縁部ヨコナデ、内面板ナデ。 胴上半部指オサエ。	浅黄橙 10Y R8/4	1mm 微砂粒多含	良好	口縁部 1/5		082
34	K12 SK16	陶器	羹	35.0 (?)	—	口縁部内外面クロコナデ。	にぶい褐 7.5Y R6/3	堅緻	良好	口縁部 1/3		083
35	F13 SK18	土師器	杯	口径: 6.8 (?)	—	内外面クロコナデ。 底部外面糸切痕。	浅黄橙 10Y R8/3	1mm 微砂粒含	良好	底部 4/5	ロク土師器	086
36	F13 SK18	土師器	小皿	8.8 (?)	1.6 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ良好。 外面未調整。	明黄褐 10Y R6/6	砂粒含	良好	1/4		085
37	F13 SK18	土師器	皿	16.0 (?)	3.4 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	灰白 7.5Y R8/2	粗砂含	軟弱	1/2	口縁部から底 部まで煤付着。	084
38	J13 SK21	土師器	皿	11.0 (?)	2.3 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	浅黄橙 7.5Y R8/3	砂粒含	良好	口縁部 1/5		179
39	G9 SK22	土師器	小皿	7.0 (?)	1.2 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	浅黄橙 10Y R8/3	砂粒含	良好	ほぼ完形		040
40	G9 SK22	土師器	小皿	7.4 (?)	1.0 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	灰白 10Y R8/2	粗砂含	良好	ほぼ完形		087
41	G9 SK22	土師器	小皿	7.6 (?)	1.1 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	灰白 10Y R8/2	砂粒含	良好	1/2		042
42	G9 SK22	土師器	小皿	7.6 (?)	1.1 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	浅黄橙 10Y R8/3	粗砂含	良好	1/2		088
43	G9 SK22	土師器	皿	12.8 (?)	2.7 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	灰白 10Y R8/2	粗砂含	良好	1/4		089
44	G9 SK22	土師器	鍋	33.1 (?)	—	口縁部ヨコナデ、内面ナデ。 頸部オサエ後ナデ、肩部ハケメ。	灰白 10Y R8/2	1mm 長石多含	良好	口縁部 1/10	外面に煤付着	041

第5-3表 出土遺物観察表

報告書 番号	出土位置	種類 (器種)	器形	法量 (cm)		観察事項		色調	胎土	焼成	残存度	備考	実測 No.
				口径	器高	成形・調整技法の特徴	観察事項						
45	J13 SK24	土師器	鍋	24.2 (?)	—	口縁部ヨコナデ。	にぶい黄橙 10Y R7/4	0.5~1mm 長石多含	良好	口縁部 1/10	外面に煤が付 着。	046	
46	J13 SK24	陶器	山茶碗	17.3 口径 : 6.8	5.4 台径 : 6.8	内外面ロクロナデ。 底部外面糸切痕。	灰白 7.5Y 6/1	5~7mm 小石含	良好	4/5		044	
47	J13 SK24	陶器	山茶碗	台径 : 6.4 (?)		内外面ロクロナデ。 底部外面糸切痕。	灰白 2.5Y 7/1	砂粒含	良好	底部 1/3		045	
48	K12 SK29	陶器	鉄軸小壺	2.2 底径 : 2.4	4.2	内外面ロクロナデ。 底部外面糸切痕。	胎) 灰白 5Y 7/1 袖) 赤黒色 2.5Y R1.7/1	整緻	良好	完形	内外面鉄軸掛 け。	047	
49	I14 SK28	土師器	皿	12.2	2.45	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	灰白 10Y R 8/2	砂粒含	良好	ほぼ完形		050	
50	H11 SK31	土師器	皿	14.2 (?)	3.2 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	浅黄橙 10Y R 8/3	砂粒含	良好	1/6		048	
51	H11 SK31	土師器	皿	14.2 (?)	3.0 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	浅黄橙 7.5Y R 8/4	砂粒含 1mm長石	良好	口縁部 1/5		049	
52	M10 SK32	鉄製品	鉄鍋	26 (?)	—	鑄造。	材質：鉄			口縁部 1/5		043	
53	O13 SD40	土師器	皿	11.8	2.6	内面ナデ。 外面剝離が激しく調整不明瞭。	灰白 10Y R 8/1	砂粒含 1~2mm 長石	やや軟弱	ほぼ完形		021	
54	H12 SD43	土師器	小皿	7.6	1.0	内面ナデ。 外面未調整。	浅黄橙 7.5Y R 8/4	砂粒含 1~3mm 長石	良好	1/2		002	
55	H12 SD43	土師器	小皿	9.8 (?)	1.4 (?)	内面ナデ。 外面未調整。	にぶい橙 7.5Y R 7/4	粗砂含	良好	1/6	内面に布目痕 あり。	017	
56	G11 SD43	土師器	皿	13.3 (?)	3.2 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	橙 7.5Y R 7/6	砂粒 若干含	良好	1/6		015	
57	G11 SD43	土師器	皿	14.0 (?)	2.9 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	浅黄橙 10Y R 8/3	粗砂含	やや軟弱	1/6		016	
58	H10 SD43	土師器	皿	11.6	2.6	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	浅黄橙 10Y R 8/3	砂粒 長石含	良好	1/4		007	

第5-4表 出土遺物観察表

報告書 番号	出土位置	種類 (器種)	器形	法量 (cm)		観察事項		色調	胎土	焼成	残存度	備考	実測 No.
				口径	器高	成形	調整技法の特徴						
59	H10 SD43	土師器	皿	11.4	2.4	内面ナデ。 外面剥離のため調整不明瞭。	淡黄 2.5Y8/3	1~3mm 長石含	良好	1/3			019
60	H11 SD43	土師器	皿	11.6	2.9	内面ナデ。 外面剥離のため調整不明瞭。	灰白 10Y R8/2	砂粒含	良好	1/2			008
61	H11 SD43	土師器	皿	11.4	2.7	内面ナデ。 外面剥離のため調整不明瞭。	灰白 10Y R8/2	粗砂含	軟弱	ほぼ完形			020
62	H10 SD43	土師器	皿	11.6	2.7	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	にぶい黄橙 10Y R7/4	砂粒含	良好	4/5	外面に煤付着		012
63	H12 SD43	土師器	皿	11.9	2.9	内面ナデ。 外面未調整。	浅黄橙 10Y R8/3	粗砂含	良好	4/5			013
64	H12 SD43	土師器	皿	10.8	2.8	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	浅黄橙 10Y R8/3	砂粒含	良好	3/4			001
65	I14 SD43	土師器	鍋	23.0 (?)	-	口縁部ヨコナデ。	浅黄橙 10Y R8/3	砂粒含, 金雲母含	良好	口縁部 1/8	口縁部煤付着		003
66	H12 SD43	土師器	鍋	28.4	-	口縁部ヨコナデ。 内面オサエ後ナデ。 胴部外面上半ハケメ。 胴部外面下半ヘラケズリ。	灰白 10Y R8/2	1~2mm 長石多含	良好	口縁部 1/3 胴部 1/2			009
67	I14 SD43	陶器	山茶碗	口径: 7.0 (?)		内面ロクロナデ。 底部外面糸切り痕。	灰白 2.5Y7/1	砂粒含	良好	底部 1/2	底部と高台の 胎土が異なる		006
68	H12 SD43	陶器	山茶碗	口径: 6.8 (?)		内外面ロクロナデ。 底部外面糸切り痕後ナデ消し。	灰白 10Y R7/1	2~3mm 砂粒含	良好	底部 1/2			018
69	I14 SD43	陶器	山茶碗	口径: 7.3		内外面ロクロナデ。 底部外面糸切り痕後ナデ消し。	黄灰 2.5Y6/1	粗砂含	良好	底部			014
70	G11 SD43	陶器	山茶碗	口径: 15.7 (?)	4.9 (?)	内外面ロクロナデ。 底部外面糸切り痕。	灰白 2.5Y7/1	粗砂含	良好	1/2	高台底部に 初穀痕。		011
71	G11 SD43	陶器	練鉢	口径: 15.0 (?)		内外面ロクロナデ、体部外面下半ロクロケズリ。 底部外面ナデケシ。	灰白 5 Y7/1	粗砂含	良好	底部 1/5	外面に自然釉 付着		010
72	G9 SD45	土師器	皿	14.8	3.4 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	にぶい黄橙 10Y R7/4	砂粒含	良好	1/6			029

第5-5表 出土遺物観察表

報告書 番号	出土位置	種類 (器種)	器形	法量 (cm)		観察事項 成形・調整技法の特徴	色調	胎土	焼成	残存度	備考	実測 No.
				口径	器高							
73	K14 SD48	土師器	鍋	33.0	-	口縁部ヨコナデ。	浅黄橙 10Y R8/4	砂粒含	良好	口縁部 1/10	口縁部外面に 煤付着。	031
74	L14 SD49	土師器	小皿	7.7	1.2	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	灰白 10Y R8/1	砂粒含	良好	完形		025
75	M13 SD49	土師器	皿	11.2 (?)	2.2 (?)	内面ナデ。 外面剥離のため調整不明瞭。	灰白 10Y R8/1	砂粒含 1~2mm 長石	やや軟弱	1/4		023
76	L14 SD49	土師器	皿	11.0	2.6	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	灰白 10Y R8/1	粗砂含	良好	4/5		024
77	K14 SD49	土師器	皿	11.8	2.8	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	浅黄橙 10Y R8/3	砂粒含	やや軟弱	5/6		026
78	M13 SD49	土師器	皿	12.3	2.6	内面ナデ。 外面剥離のため調整不明瞭。	灰白 10Y R8/2	1~2mm 長石多含	やや軟弱	2/3		022
79	L13 SD49	陶器	山茶碗	台径：6.8		内外面ロクロナデ。 底部外面糸切り痕。	灰白 7.5Y R6/1	砂粒含	良好	底部		027
80	K14 SD52	土師器	皿	14.0 (?)	2.6 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	橙 7.5Y R7/6	砂粒含	良好	1/5		028
81	J15 SD58	土師器	皿	11.6	2.6	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	黄橙 10Y R7/3	砂粒含	良好	5/6		030
82	F13 第Ⅲ層	土師器	小皿	8.8 (?)	1.4 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	浅黄橙 10Y R8/3	砂粒 若干含	並み	1/2	外面底部に黒 い部分あり。	091
83	F13 第Ⅲ層	土師器	小皿	9.4	1.8	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	灰白 2.5Y R8/2	1~3mm 粗砂多含	並み	4/5	内面と外面に 黒っぽい部分 あり。	090
84	F14 第Ⅲ層	土師器	小皿	9.4	1.7	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	浅黄橙 7.5Y R8/4	砂粒多含	良好	完形	口縁部の一 部色違いあり	098
85	F14 第Ⅲ層	土師器	小皿	9.6 (?)	2.2 (?)	内面ナデ。 外面剥離のため調整不明瞭。	灰白 2.5Y R8/2	1~2mm 粗砂多含	やや軟弱	1/2		094
86	F15 包含層	土師器	小皿	9.6 (?)	1.8 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	浅黄橙 10Y R8/4	砂粒含	良好	1/5		127

第5-6表 出土遺物観察表

報告書 番号	出土位置	種類 (器種)	器形	法量 (cm)		観察事項	色調	胎土	焼成	残存度	備考	実測 No.
				口径	器高							
87	N17 包含層	土師器	皿	13.6	3.3	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	浅黄橙 10Y R8/3	砂粒含 金雲母含	良好	2/3		138
88	F14 第Ⅲ層	土師器	皿	14.8	3.2	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	浅黄橙 10Y R8/3	粗砂多含 3mm小石	並み	2/3	断面に黒い部 分が残る。	099
89	F13 第Ⅲ層	土師器	皿	14.4	3.7	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	灰白 10Y R8/2	1~2mm 長石多含	良好		外面口縁部 内面底部まで 煤附着。	093
90	G17 包含層	土師器	皿	15.3 (?)	2.7 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	橙 7.5Y R7/6	砂粒含	良好	1/4		110
91	F13 第Ⅲ層	土師器	皿	14.4 (?)	2.5 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	淡黄 2.5Y 8/3	砂粒含	良好	口縁部 1/5		092
92	G17 包含層	土師器	皿	15.0 (?)	2.5 (?)	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	灰白 2.5Y 8/2	微砂粒含	良好	1/5		111
93	G13 第Ⅲ層	土師器	皿	13.0	3.1	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ、外面未調整。	黄灰色 10Y R8/2	微砂粒含	良好	2/3		105
94	G13 第Ⅲ層	土師器	皿	12.2	2.4 (?)	内面ナデ。 外面剥離のため調整不明瞭。	灰白 10Y R8/2	1~2mm 長石多含	やや軟弱	口縁部 1/2		126
95	F14 第Ⅲ層	土師器	皿	11.4 (?)	2.7 (?)	内面ナデ。 外面剥離のため調整不明瞭。	灰白 10Y R8/2	砂粒含	軟弱	1/5		125
96	F14 第Ⅲ層	土師器	杯	底径：6.4		内外面ロクロナデ。 底部外面糸切り痕。	浅黄橙 10Y R8/4	粗砂含金 雲母多含	良好	底部 5/6	ロクロ土師器	100
97	F14 第Ⅲ層	土師器	椀	16.4	6.1	内外面ロクロナデ。 底部外面糸切り痕。	浅黄橙 10Y R8/4	1~2mm 長石含	良好	ほぼ完形	ロクロ土師器	101
98	G9 包含層	土師器	鍋	21.2 (?)	-	口縁部ヨコナデ。 内面オサエ後ナデ。 外面剥離のためハケメ、ケズリの範囲不明瞭。	淡橙 (口縁部) 5Y R8/3 灰白 (胴部) 2.5Y 8/2	1~2mm 長石多含	良好	口縁部 胴部 1/4		128
99	G13 第Ⅲ層	土師器	鍋	24.0 (?)	-	口縁部ヨコナ。 頸部指オサエ。 胴部内面横方向のヘラケズリ。 胴部外面横方向のヘラケズリ。	にぶい橙 7.5Y R7/4	粗砂多含	良好	口縁部 1/6 胴部 2/3	外面煤附着。	104

第5-7表 出土遺物観察表

報告書 番号	出土位置	種類 (器種)	器形	法量 (cm)		観察事項	色調	胎土	焼成	残存度	備考	実測 No.
				口径	器高							
100	N17 包含層	土師器	鍋	25.0 (?)	—	口縁部ヨコナデ。 内面オサエノチナデ。 外面胴部指オサエ。	橙 5Y R6/6	1~2mm 粗砂多含	良好	口縁部 1/4 胴部 1/5	外面に煤附着	139
101	F12 第Ⅲ層	土師器	鍋	29.3 (?)	—	口縁部ヨコナデ、内面ナデ。 頸部指オサエ後ヨコナデ。 外面胴上半部ハケメ。 内外面胴部下半部ヘラケズリ。	内) にぶい灰褐色 5Y R5/2 外) にぶい橙 5Y R7/4	粗砂多含	良好	口縁部 1/4 胴部 1/4	頸部に煤附着	089
102	G13 第Ⅲ層	土師器	鍋	17.9 (?)	—	口縁部ヨコナデ。 頸部指オサエ後ヨコナデ。 胴上半部内面オサエ後ナデ。 胴下半部内面板ナデ。 胴上半部外面板ナデ。 胴下半部外面板ヘラケズリ。	浅黄橙 10Y R8/3	粗砂多含	良好	口縁部 1/6 胴部 2/3	外面胴下半部 に煤附着。	132
103	J12 包含層	土師器	羽釜	10.2 (?)	—	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ。 外面オサエ後ナデ。	浅黄橙 10Y R8/3	1~2mm 長石 金雲母 多含	良好	口縁部 1/8	外面に煤附着	115
104	N16 包含層	土師器	羽釜	6.3 (?)	—	口縁部ヨコナデ。 内面ナデ。 外面オサエ後ナデ。 頸部貼り付け。 口縁部、頸部上面に櫛状工具に よる沈線あり。	浅黄橙 10Y R8/3	砂粒含	良好	1/5	ミニチュア	177
105	J12 包含層	陶器	山皿	8.2	2.5	内外面ロクロナデ。 底部外面糸切り痕後ナデ消し。 貼り付け高台。	胎) 灰白 2.5Y7/1 釉) オリーブ灰 10Y R6/2	砂粒含	良好	口縁部 1/7 底部 2/5	高台端部に初 發痕、口縁部 から体部外面 上半に自然釉	135
106	J25 包含層	陶器	山皿	8.6 (?)	2.2	内外面ロクロナデ。 底部外面糸切り痕後ナデ消し。 貼り付け高台。	胎) 灰白 7.5Y7/1 釉) オリーブ灰 5Y R6/2	砂粒含	良好	2/3		116
107	G14 第Ⅲ層	陶器	山皿	8.2	1.8	内外面ロクロナデ。 底部外面糸切り痕。	胎) 灰白 5Y R8/1 釉) オリーブ灰 7Y R6/3	砂粒含	良好	完形		133
108	G13 第Ⅲ層	陶器	山茶碗	台径: 7.2 (?)		内外面ロクロナデ。 底部外面糸切り痕後ナデ消し。	灰黄 2.5Y R7/2	砂粒含	良好	1/5	高台端部に 初發痕あり。	108

第5-8表 出土遺物観察表

報告書 番号	出土位置	種類 (器種)	器形	法量 (cm)		観察事項 成形・調整技法の特徴	色調	胎土	焼成	残存度	備考	実測 No.
				口径	器高							
109	F14 第Ⅲ層	陶器	山茶碗	口径	台径：6.0	内外面ロクロナデ。 底部外面糸切り痕ナデ消し。 貼り付け高台。	灰黄 2.5Y R6/2	1mm長石 合	良好	底部		102
110	J14 包含層	陶器	山茶碗	口径	台径：6.6	内外面ロクロナデ。 底部外面糸切り痕。 貼り付け高台。	灰白 2.5Y R7/1	砂粒多合	良好	底部	高台内に 「米」の墨書 あり。	136
111	N16 包含層	陶器	山茶碗	口径	台径：6.0 (?)	内外面ロクロナデ。 底部外面糸切り痕ナデ消し。 貼り付け高台。	灰白 2.5Y R8/1	砂粒合	良好	底部 1/4	底部外面に墨 書あり。	140
112	F14 第Ⅲ層	陶器	山茶碗	口径	17.4 (?) 台径：9.0?	内外面ロクロナデ。 底部外面糸切り痕後ナデ消し。 貼り付け高台。	釉) 灰白 7.5Y R8/1 胎) 灰白 10Y R8/1	1~2mm 長石多合	良好	口縁部 1/5 底部	口縁部から体 部にかけて内 外面に灰軸漬 け掛け。	097
113	F14 第Ⅲ層	陶器	山茶碗	口径	16.4 台径：7.6	内外面ロクロナデ。 底部外面糸切り痕。 貼り付け高台。	灰黄 2.5Y R7/2	1~2mm 長石多合	良好	4/5		096
114	G13 第Ⅲ層	陶器	山茶碗	口径	17.0 台径：8.4	内外面ロクロナデ。 底部外面糸切り痕。 貼り付け高台。	釉) オリーブ黄 1.0Y R8/3 胎) 灰白 10Y R7/1	1~2mm 長石多合	良好	ほぼ完形	口縁部に自然 釉付着。 重ね積み焼成 痕あり。	131
115	N16 包含層	陶器	山茶碗	口径	16.0 台径：8.0	内外面ロクロナデ。 底部外面糸切り痕。 貼り付け高台。	灰白 10Y R7/1	0.5~1mm 長石合	良好	6/7	高台端部に粉 殻痕あり。	141
116	F14 第Ⅲ層	陶器	山茶碗	口径	17.2 (?) 台径：9.2?	内外面ロクロナデ。 底部外面糸切り痕後ナデ消し。	灰白 10Y R8/1	1~2mm 長石合	良好	口縁部 2/5 底部 1/3	高台端部に粉 殻痕あり。 口縁部に自然 釉付着。	095
117	M13 包含層	青磁	小皿	口径	底径：5.0 (?)	内外面ロクロナデ。 内面と外面体部上半部に施釉。 体部外面下半ロクロケズリ。	胎) 灰白 5 Y7/1 釉) オリーブ 7.5Y6/2	堅緻	堅緻	底部 1/3		121
118	F14 第Ⅲ層	青磁	小皿	口径	10.2 (?) 2.4 (?)	内面と外面体部上半部に施釉。内外面ロクロナデ。 底部内面に緋描線文様。 体部外面下半ロクロケズリ。	胎) 灰白 2.5Y7/1 釉) オリーブ黄 7.5Y5/2	堅緻	堅緻	1/5		119

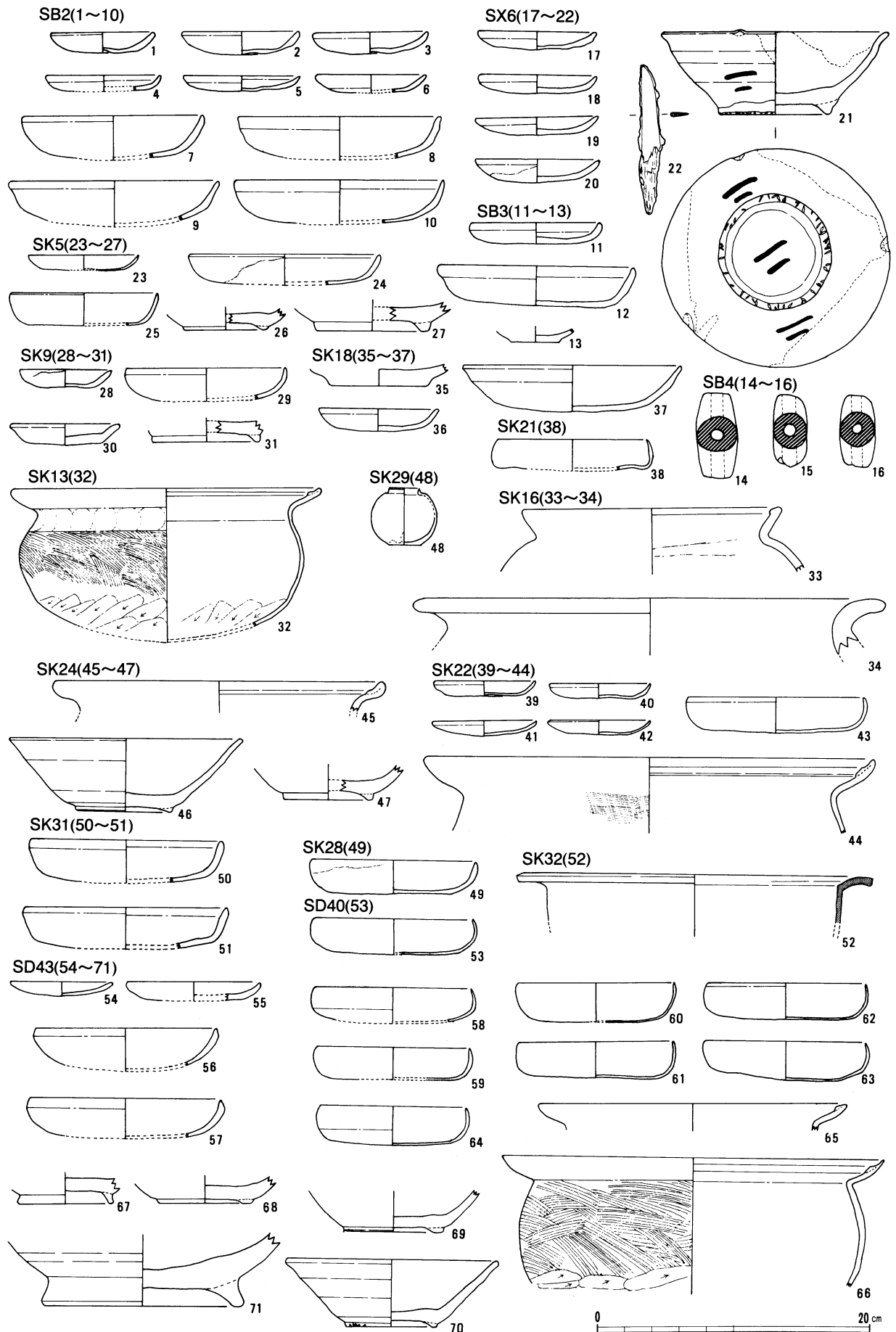
第5-9表 出土遺物観察表

報告書 番号	出土位置	種類 (器種)	器形	法量 (cm)		観察事項		色調	胎土	焼成	残存度	備考	実測 No.
				口径	器高	成形	調整技法の特徴						
119	G12 H12 包含層	青磁	椀	13.0 (?)	5.1	内外面ロクロナデ。 削り出し高台。	内面と外面に施釉。 体部外面に蓮弁文様。	胎) 灰白 10Y8/1 釉) 明緑灰 5GY7/1	堅緻	堅緻	口縁部 1/4 高台 3/4		129
120	I12 包含層	青磁	椀	口径：5.3 (?)		内外面ロクロナデ。 削り出し高台。	内面と外面に施釉。 体部外面に蓮弁文様。	胎) 灰白 2.5Y7/1 釉) 灰オリーブ 7.5Y5/2	堅緻	堅緻	1/4		113
121	R13 包含層	陶器	合子	4.2 (?)	-	内外面ロクロナデ。 口縁部外面に菊花の印花文。 肩部外面に4本の沈線、その下部に蓮弁の印花文。		胎) 内面：浅黄橙 7.5YR5/3 外面：灰白 2.5Y8/2 釉) 灰オリーブ 7.5Y5/2	砂粒含	良好	口縁部 1/9 体部上半 1/8	内面と外面に 灰釉漬掛け。 (外面の釉が 剥離)	124
122	F13 第三層	石製品	砥石	残存長：8.5 残存厚：1.4 幅：5.3		材質：砂岩					不明	使用痕あり。	178
123	G9 包含層	土師器	火鉢	-		内外面オサエ後ナデ。外面に印花文。 内面ナデ。		にぶい橙 7.5YR7/6	粗砂含	良好	小片		130
124	K17 包含層	土師器	火鉢	-		表面剥離のため調整不明瞭。外面に印花文。		浅黄橙 10YR8/3	粗砂多含	やや軟弱	小片		118
125	M12 包含層	陶器	おろし皿	底径：8.0 (?)		内外面ロクロナデ。 底部外面米切り痕。	内面施釉。 外面施釉部分あり。	胎) 灰白 5Y8/1 釉) 灰オリーブ 7.5Y6/2	砂粒含		底部 1/4		120
126	G13 包含層	鉄製品	小刀	残存長：31.4		鍛造・断面二等辺三角形を呈す。		材質：鉄			切先、 基部欠失	目釘孔あり。	109
127	N17 包含層	鉄製品	小刀	残存長：23.9		鍛造・断面二等辺三角形を呈す。		材質：鉄			切先、 基部欠失	目釘孔あり。	123
128	K14 包含層	鉄製品	刀子	残存長：5.8		鍛造・断面二等辺三角形を呈す。		材質：鉄			先端部 のみ		160
129	F14 包含層	鉄製品	鉄製利器	残存長：9.8		鍛造・断面菱形を呈す。		材質：鉄			良好		150

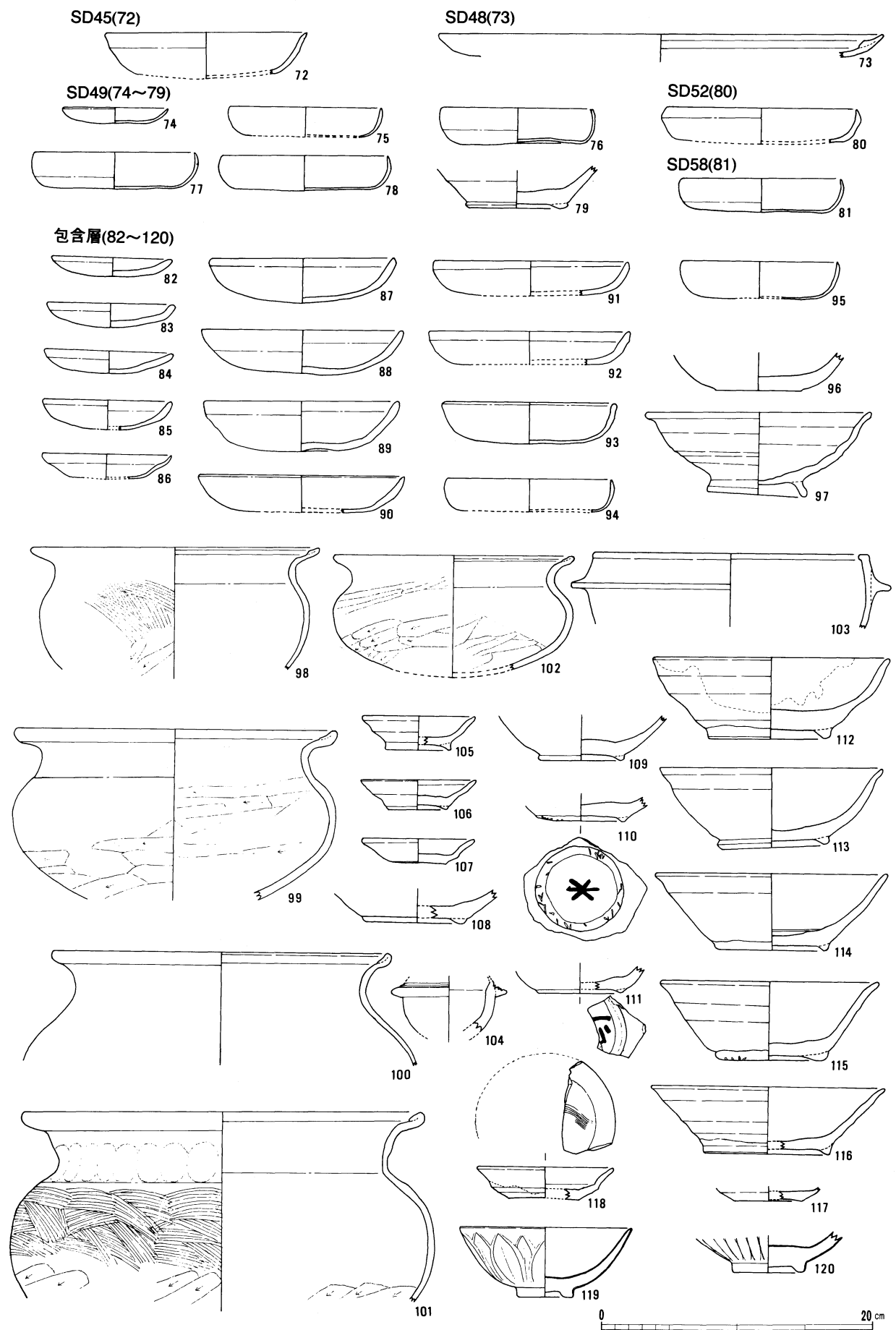
第5-10表 出土遺物観察表

報告書 番号	出土位置	種類 (器種)	器形	法量 (cm)		観察事項		色調	胎土	焼成	残存度	備考	実測 No
				口径	器高	成形	調整技法の特徴						
130	K16 包含層	鉄製品	鉄鎌	残存長：34.5		鍛造・断面身部二等辺三角形、基部台形を呈す。	材質：鉄				身部、基部一部欠失		117
131	G14P1 SB3	鉄製品	鉄釘	残存長：3.8		鍛造・断面ほぼ四角形を呈す。	材質：鉄				先端部欠失		145
132	J10 SK9	鉄製品	鉄釘	残存長：6.2		鍛造・断面ほぼ四角形を呈す。	材質：鉄				先端部欠失		143
133	E14 SD44	鉄製品	鉄釘	残存長：6.3		鍛造・断面ほぼ四角形を呈す。	材質：鉄				先端部欠失		142
134	F9 pit1	鉄製品	鉄釘	残存長：6.5		鍛造・断面ほぼ四角形を呈す。	材質：鉄				先端部頭部欠		144
135	N17 包含層	鉄製品	鉄釘	残存長：4.5		鍛造・断面ほぼ四角形を呈す。	材質：鉄				先端部基部欠		122
136	N17 包含層	鉄製品	鉄釘	残存長：2.7		鍛造・断面ほぼ四角形を呈す。	材質：鉄				先端部欠失		171
137	N17 包含層	鉄製品	鉄釘	残存長：4.5		鍛造・断面ほぼ四角形を呈す。	材質：鉄				身部片のみ		172
138	N17 包含層	鉄製品	鉄釘	残存長：5.2		鍛造・断面ほぼ四角形を呈す。	材質：鉄				身部片のみ		173

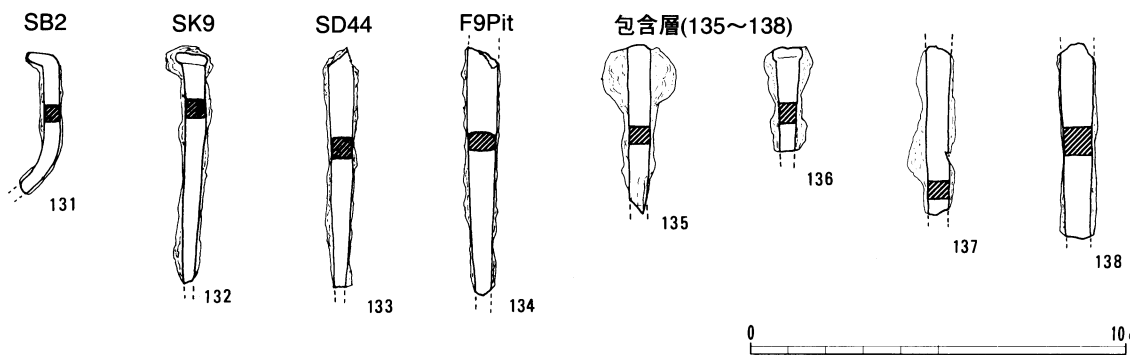
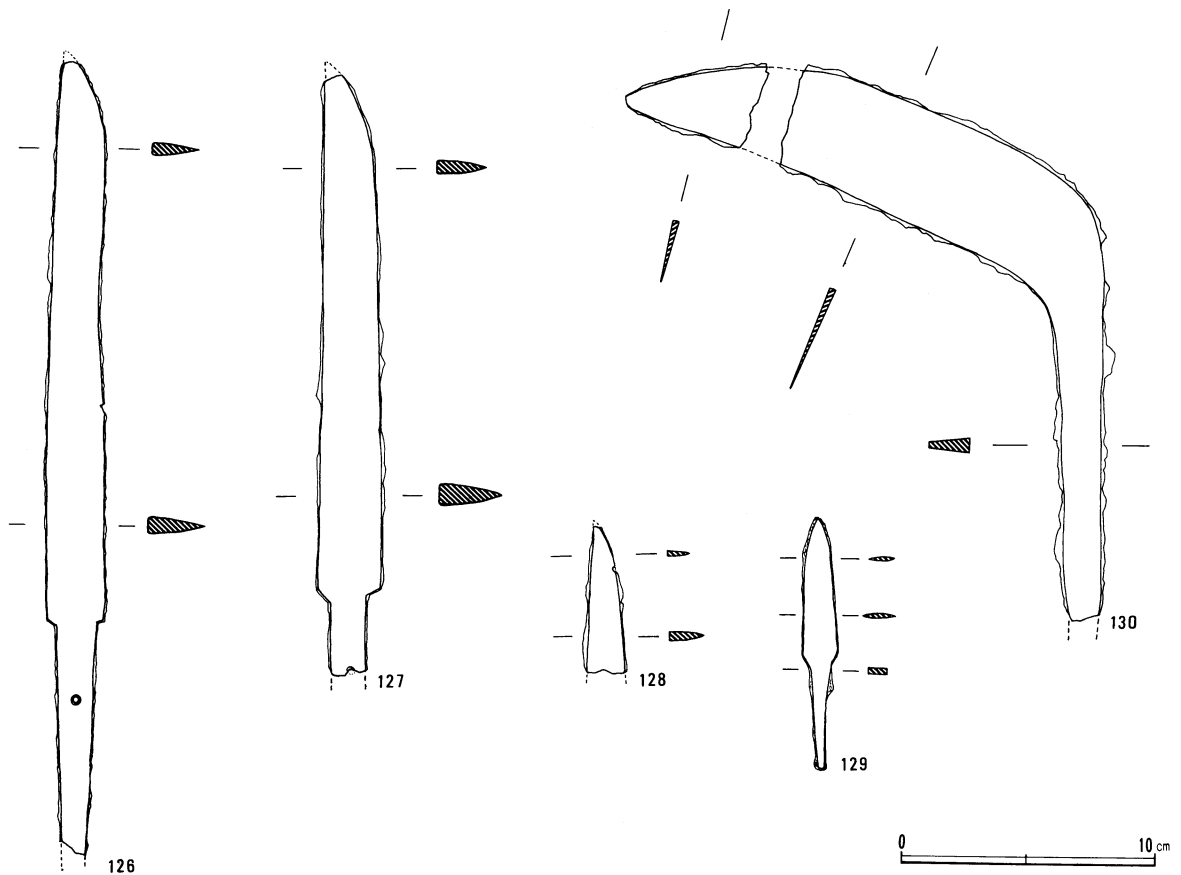
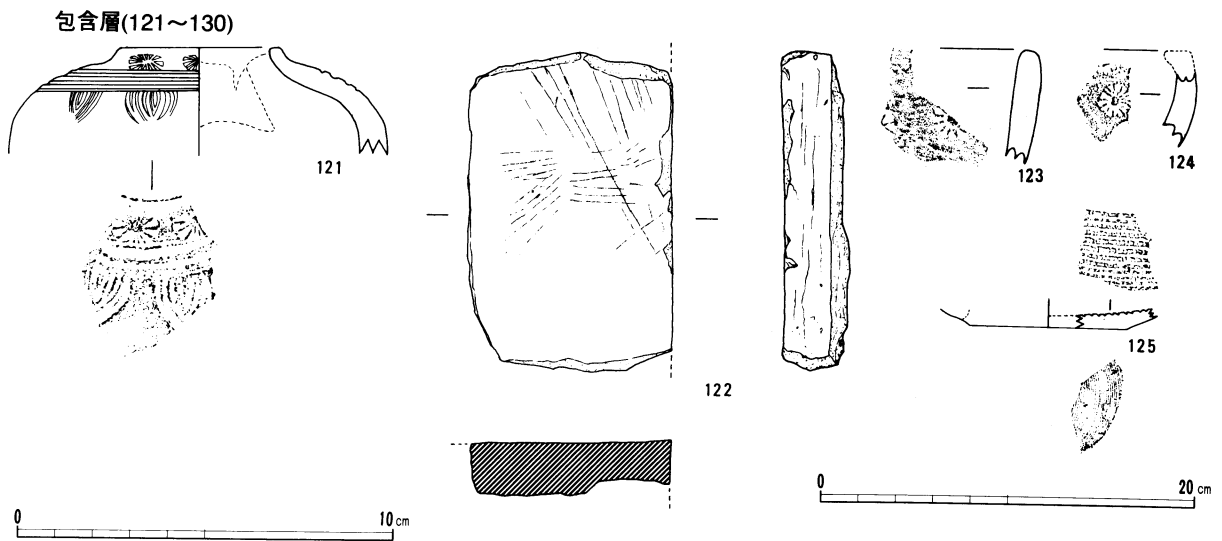
第5-11表 出土遺物観察表



第16図 出土遺物実測図 (1 : 4)



第17図 出土遺物実測図 (1 : 4)



第18図 出土遺物実測図 (121・122, 131~138は1:2, 123~125は1:4, 126~130は1:3)

4. 結 語

今回の調査で検出された主な遺構としては、掘立柱建物4棟、中世墓1基がある。その他、中世墓と思われる土坑、溝等の遺構が検出された。その時期であるが、土器小片のため時期決定の難しいものが大半である。ここでは、掘立柱建物、土坑を中心に若干の検討を行っておく。

掘立柱建物は4棟（SB1～4）検出されているが、SB1は出土遺物がなく、SB4の出土遺物は土錘3点のみで、出土遺物から時期を推定できる建物はSB2・3の2棟である。SB2の時期は、柱掘形から出土した土師器小皿（1～6）・皿（7～10）からみて鎌倉時代前半としておきたい。SB3の時期は、柱掘形から出土した土師器小皿（11）・皿（12）、山皿（13）からみて、SB2と同じく鎌倉時代前半であろうと思われる。SB1とSB4は、棟方向がほぼ直交することから、同時期とも推定できる。

中世墓としたSX6は、埋土中から出土した土師器小皿（17～20）、山茶椀（21）からみて平安時代末葉のものと思われる。

土坑は、29基検出された。そのうち、5基（SK19・21・22・28・29）は中世墓の可能性も考えられる。SK19・21・28は、いずれもほぼ同じ規模の隅丸方形の土坑である。出土土器からみてSK21・28は、鎌倉時代後半のものと考えられる。SK19は土師器皿・鍋が出土しているが、細片のため時期は不明である。SK22・29はほぼ同じ規模の円形土坑で、出土土器からみてSK29は鎌倉時代後半、SK22は室町時代前半のものと考えられる。以上の5基の

土坑に類似した形態、規模の土坑は、当調査区と同時期に発掘調査された蚊山遺跡左郡地区でも多数検出されている^⑥。他に平安時代末葉、鎌倉時代前半、鎌倉時代後半の土坑をそれぞれ2基、室町時代前半のものを1基検出したが、その性格はいずれも不明である。

溝は、東西に走るものと南北に走るものに大別される。出土遺物から時期決定できたものは、平安時代末葉、鎌倉時代前半のものがそれぞれ1条、室町時代前半のものが5条である。区画性のある溝ではなく、お互いに重複したり交差しており、その性格は不明である。

以上、今回検出された掘立柱建物、土坑、溝の時期について述べたが。要約すると掘立柱建物は、時期不明のSB1・4を除き鎌倉時代前半頃につくられたと判断できる。SB2とSB3には、出土遺物に若干の時期差がみられ、SB3の方が新しいと思われる。また、平安時代末葉の中世墓SX6、鎌倉時代後半～室町時代前半の中世墓である可能性が考えられるSK21・22・28・29などから判断して、当調査区は、平安時代末葉に墓が築かれたがその後、鎌倉時代前半に集落となり、鎌倉時代後半～室町時代前半になって、再び墓が築かれるという変遷を辿ったと考えられる。しかし、蚊山遺跡所り垣地区は、広大な遺跡範囲をもつ蚊山遺跡のごく一部であり、並行して発掘調査が行われた左郡地区との関連など今後の研究の成果を待ちたい。

（稲本賢治）

〔註〕

- ① 藤澤良祐「瀬戸古窯跡群Ⅰ」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅰ』瀬戸市歴史民俗資料館 1982
- ② 新田 洋「平安時代～中世における煮炊用具—「伊勢型」鍋—に関する若干の覚書」『三重考古学研究』1 三重考古学談話会 1985
- ③ 伊藤裕偉「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」『Miehist

ory』vol. 1 三重歴史文化研究会 1990

- ④ ①と同じ
- ⑤ 賢元洋『公文遺跡（Ⅱ）』豊橋市教育委員会 1989
- ⑥ 小坂宜広 他「蚊山遺跡」『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査概報Ⅵ』三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター 1990

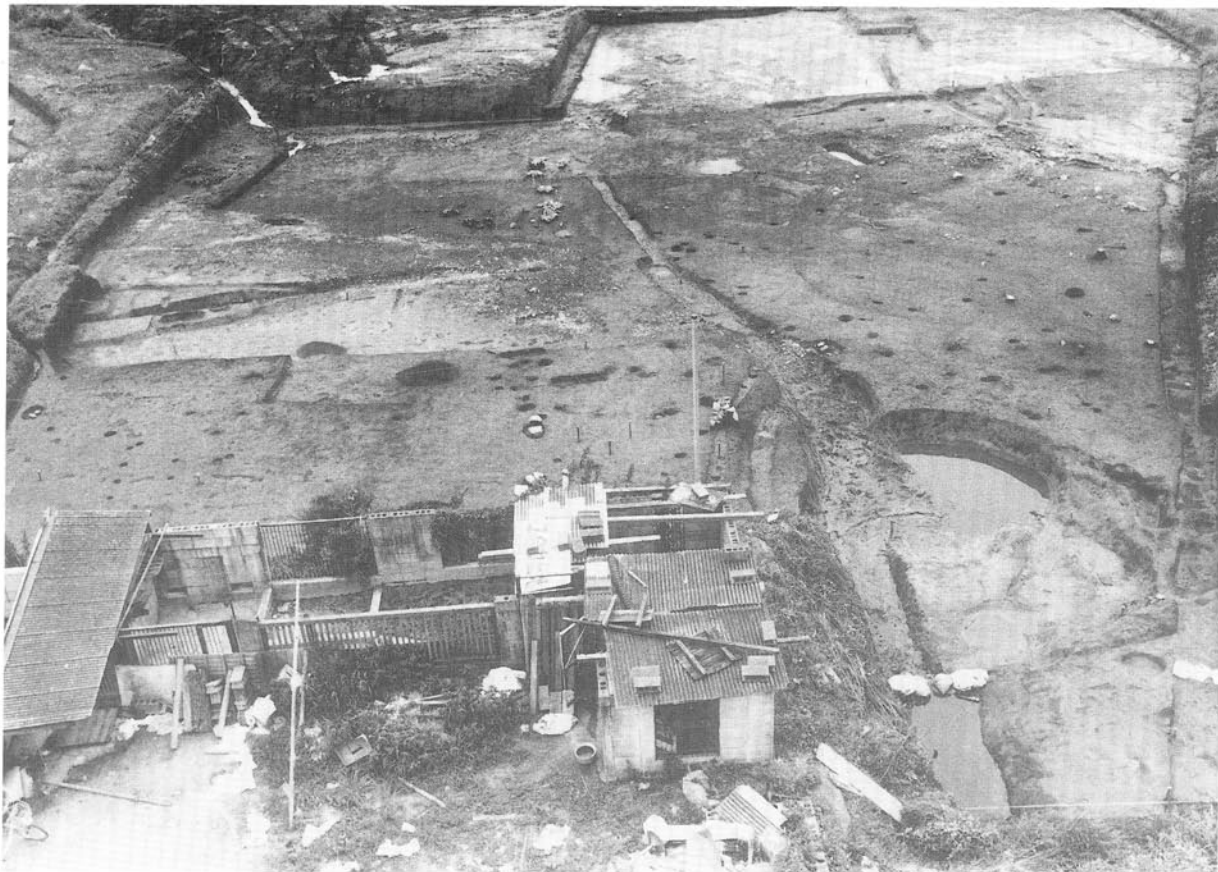


調査前風景（南西から）



調査区全景（南西から）

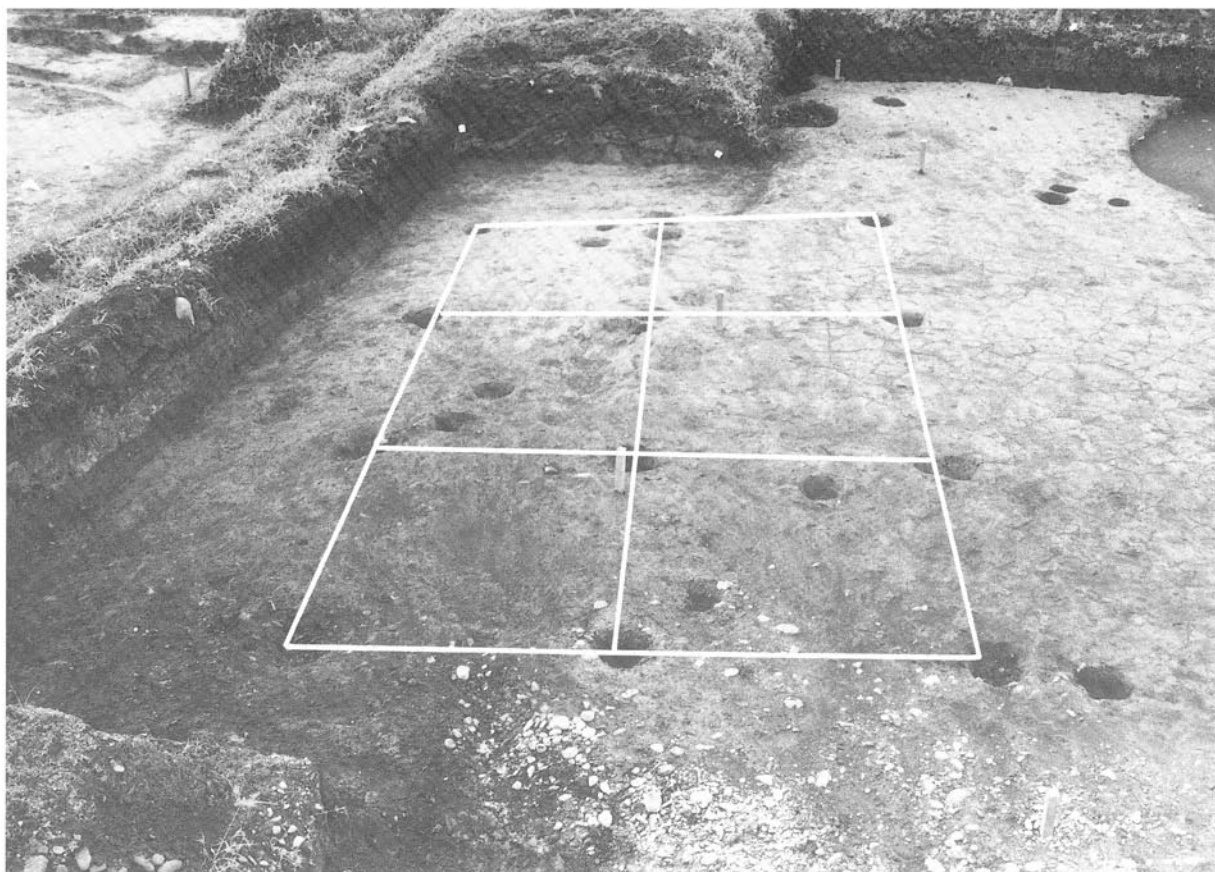
PL 2



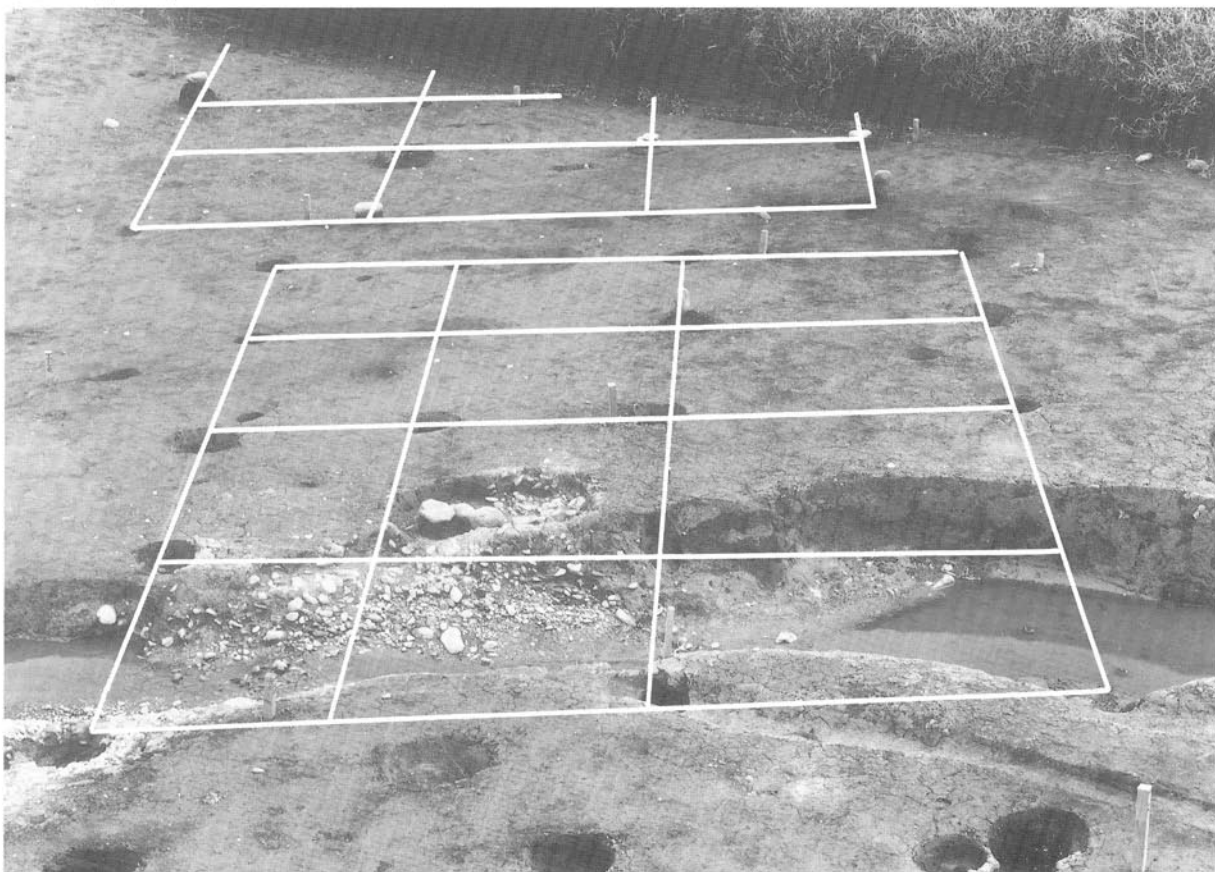
A地区全景（北西から）



B地区全景（西から）

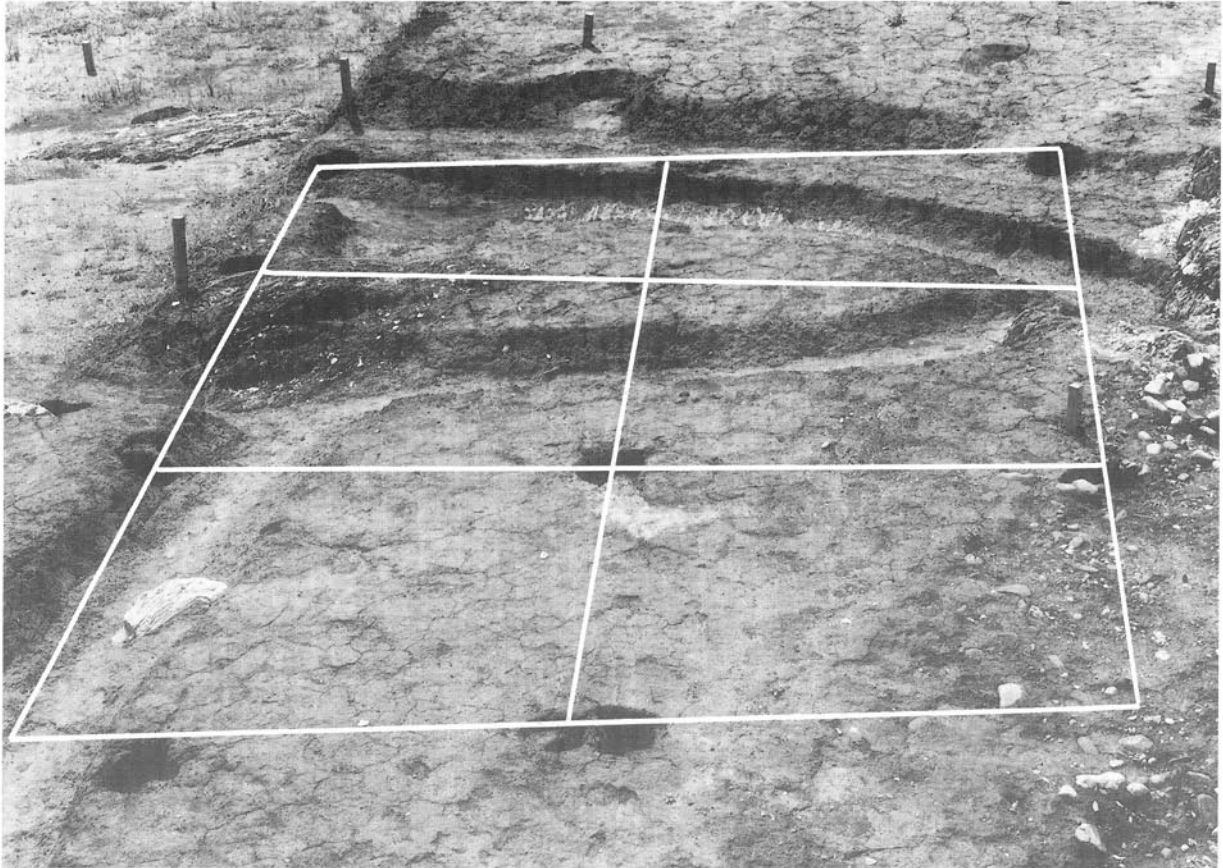


SB1 (東から)



SB2・3 (北から)

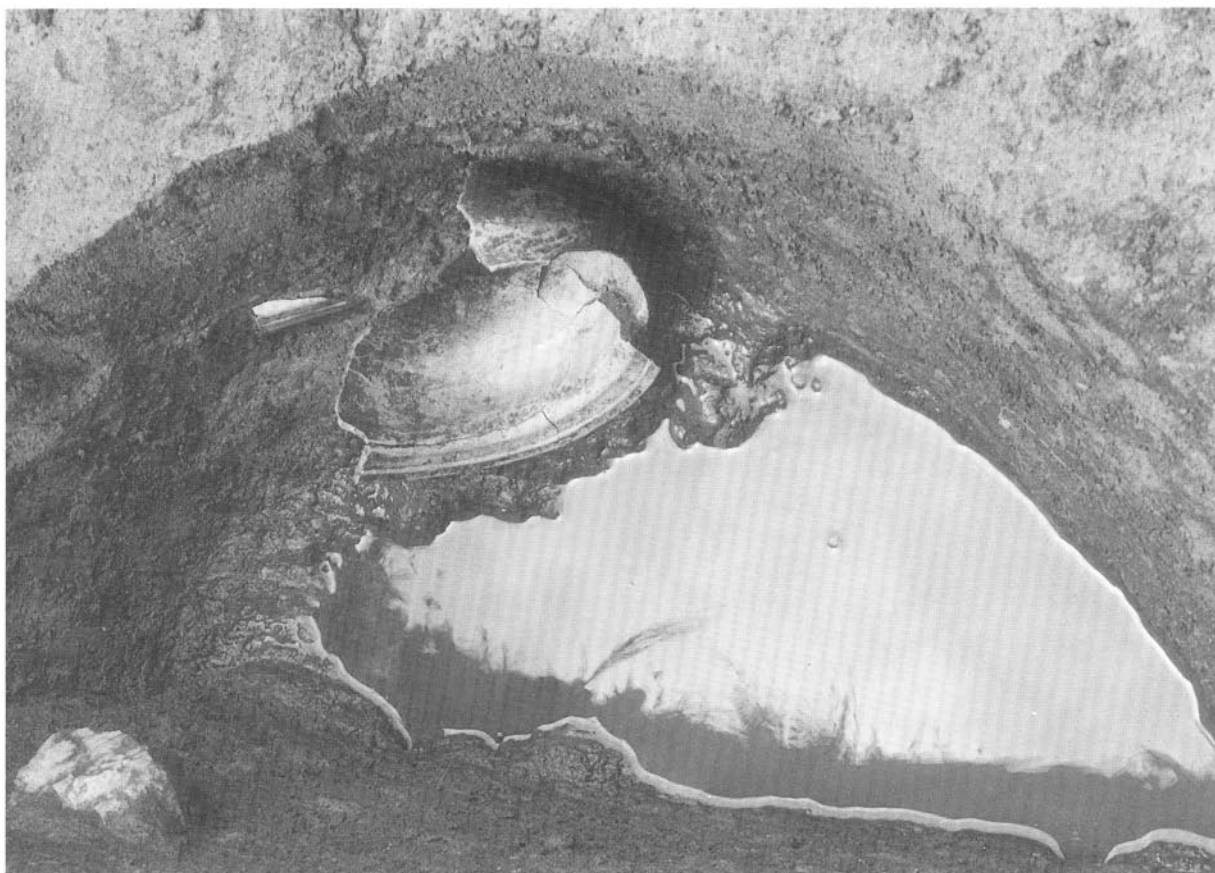
PL-4



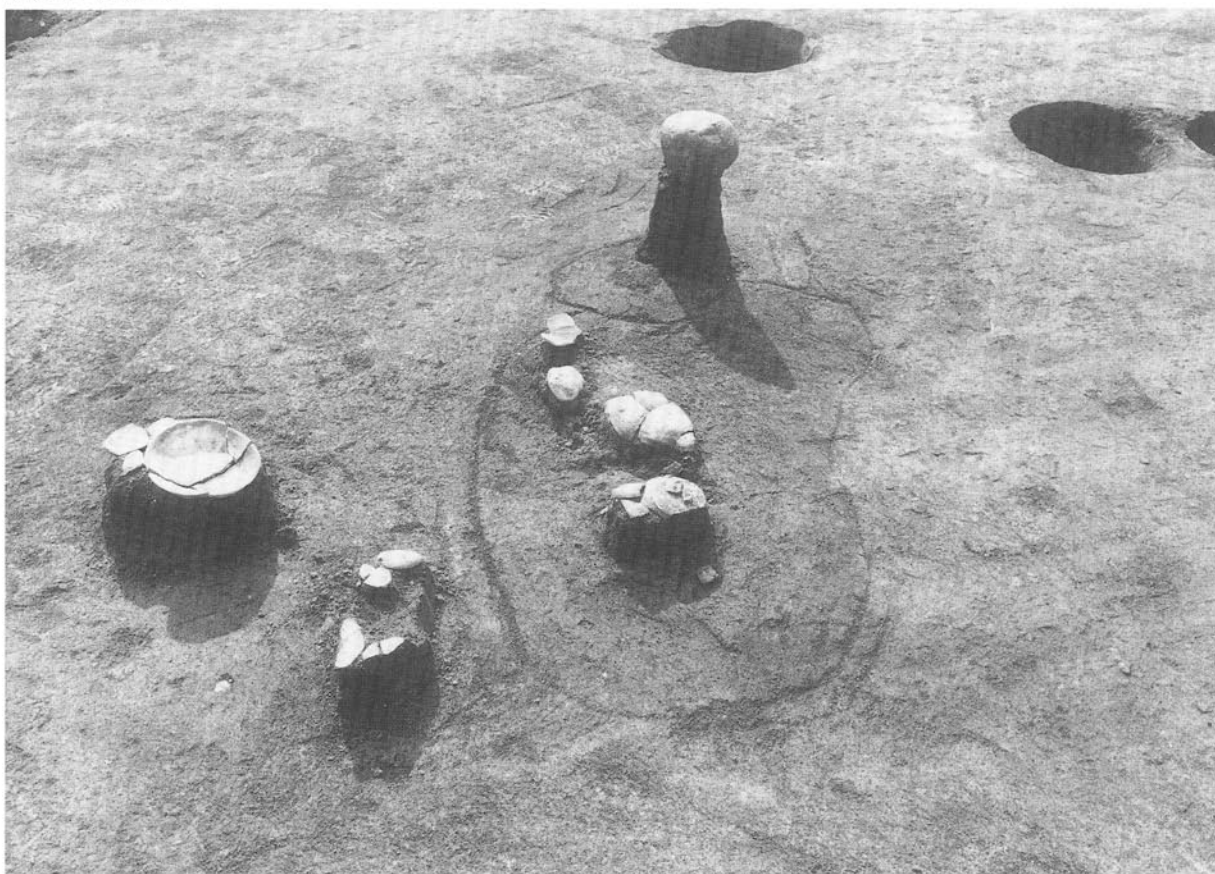
SB 4 (北から)



SX 6 (東から)



S K13 (南から)

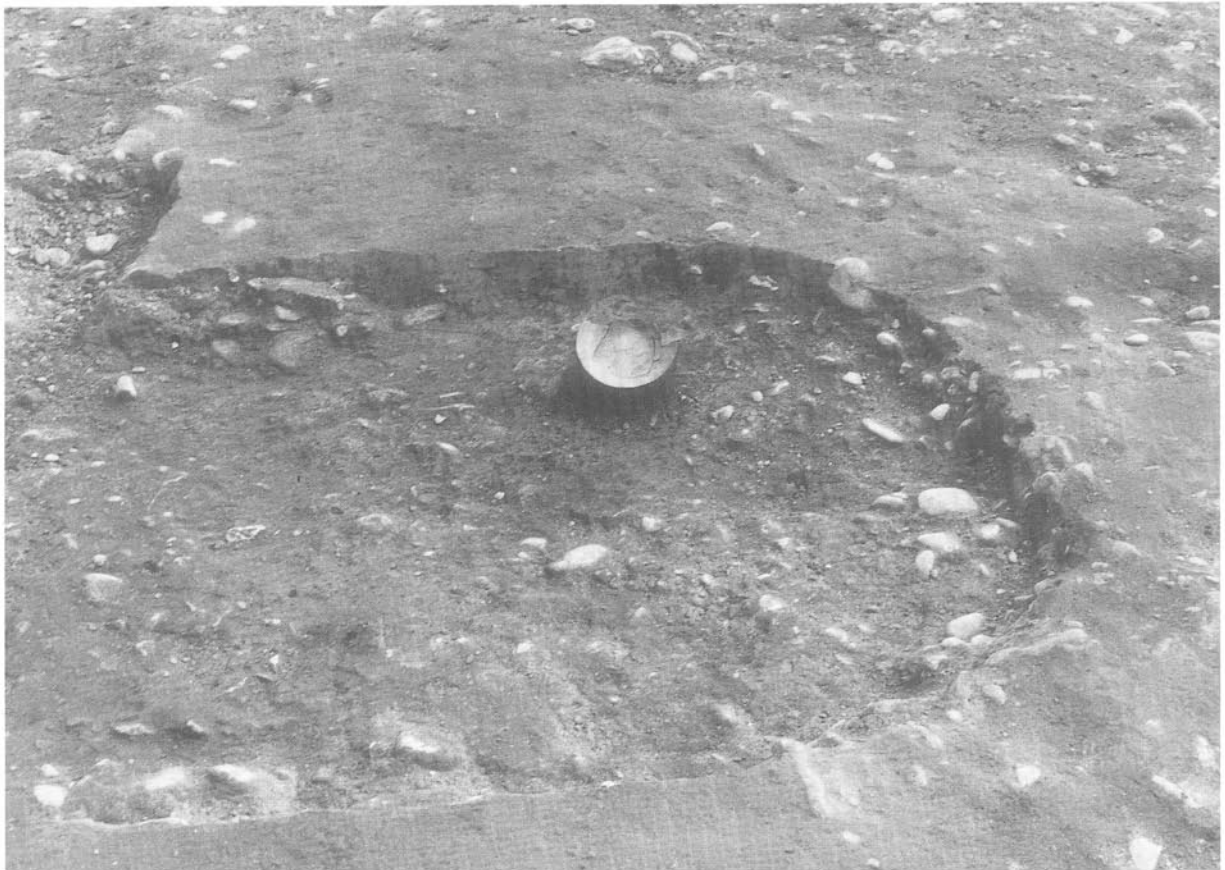


S K18検出状況 (東から)

PL 6



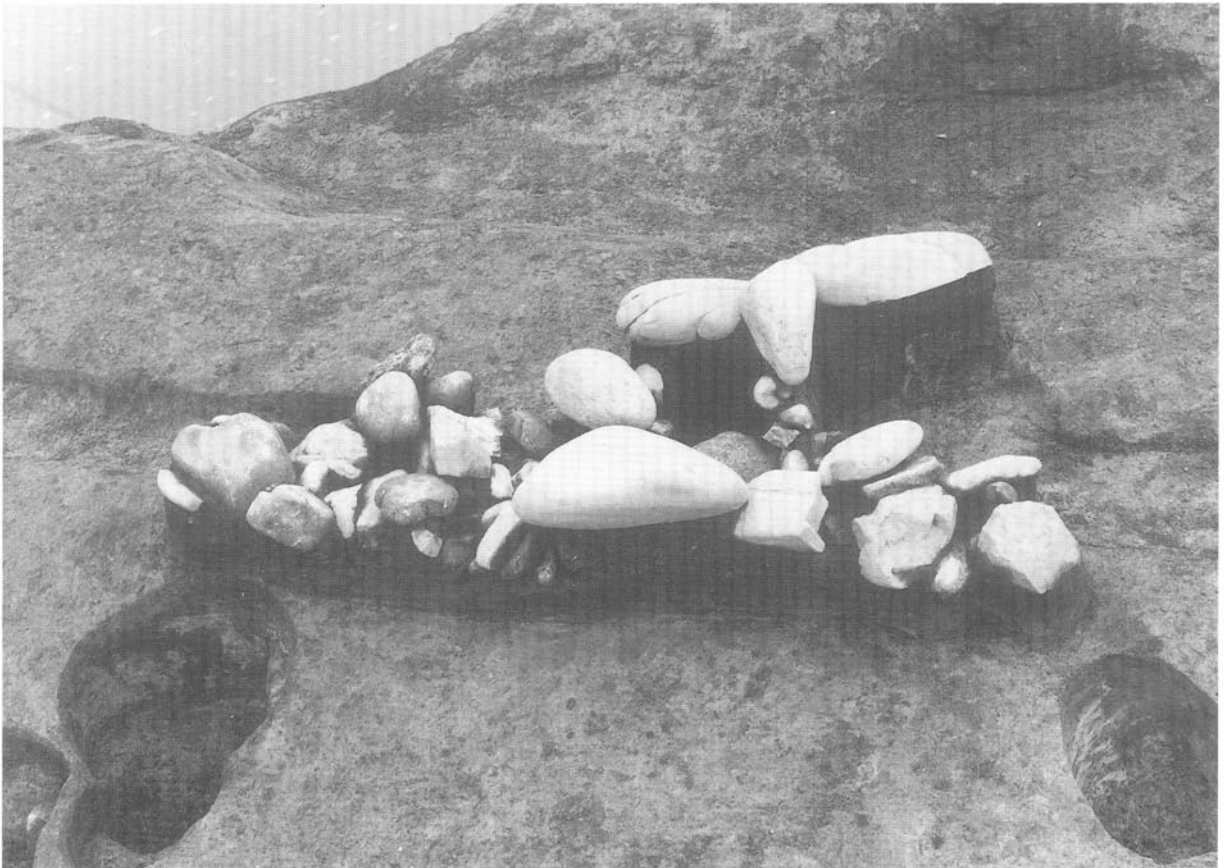
S K22遺物出土状況（東から）



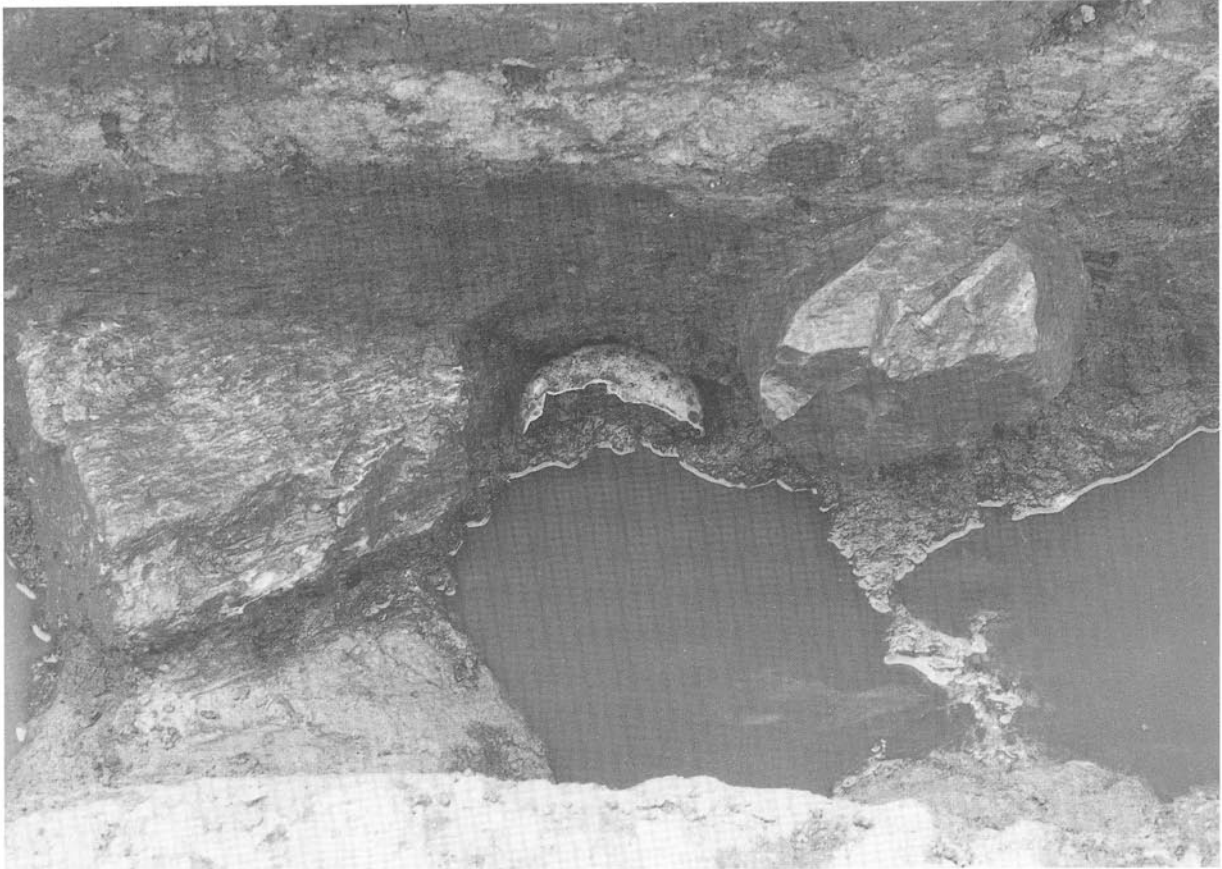
S K24（北から）



S K 28 (南から)



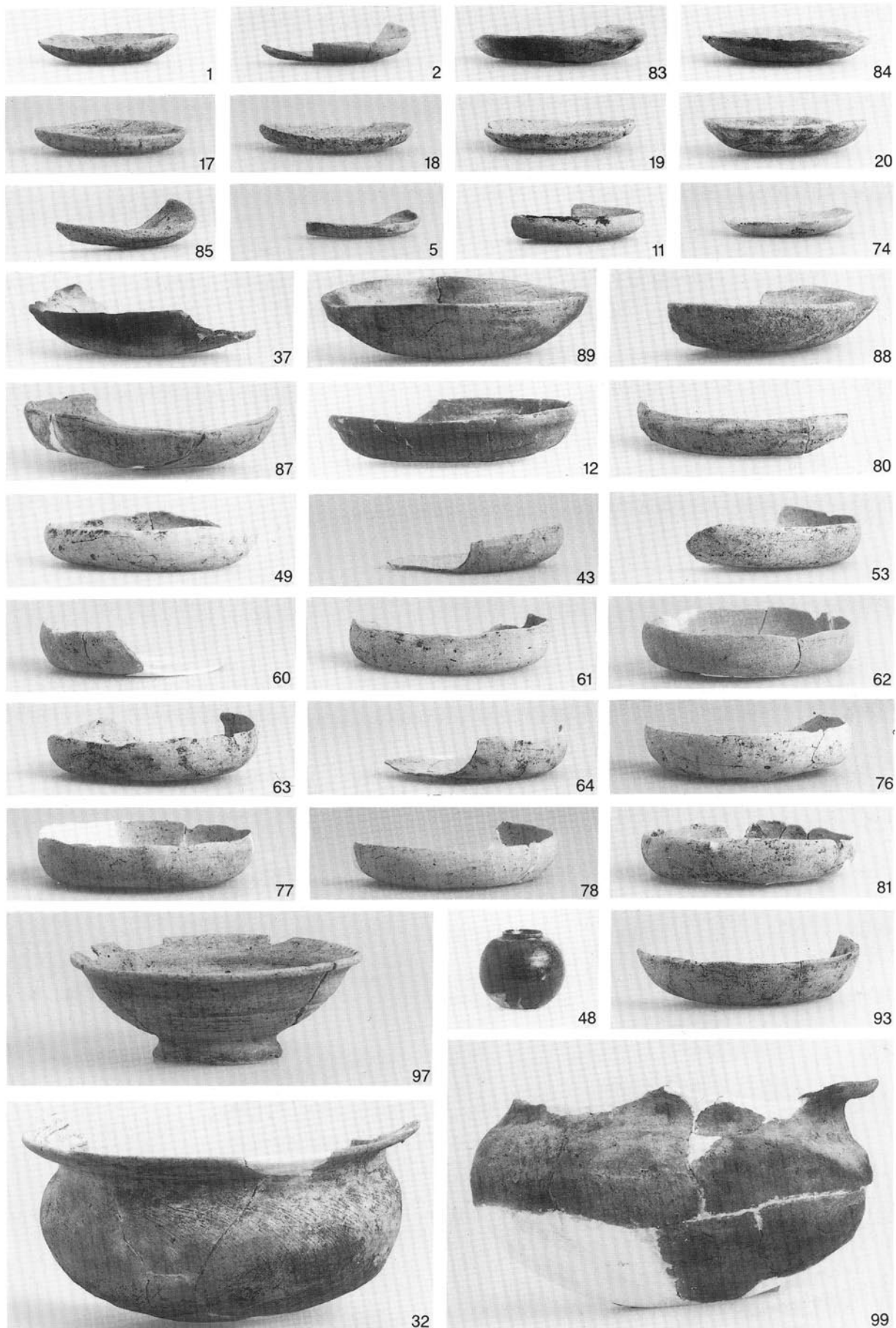
S Z 35 (北から)



S D40土師器皿 (53) 出土状況 (東から)

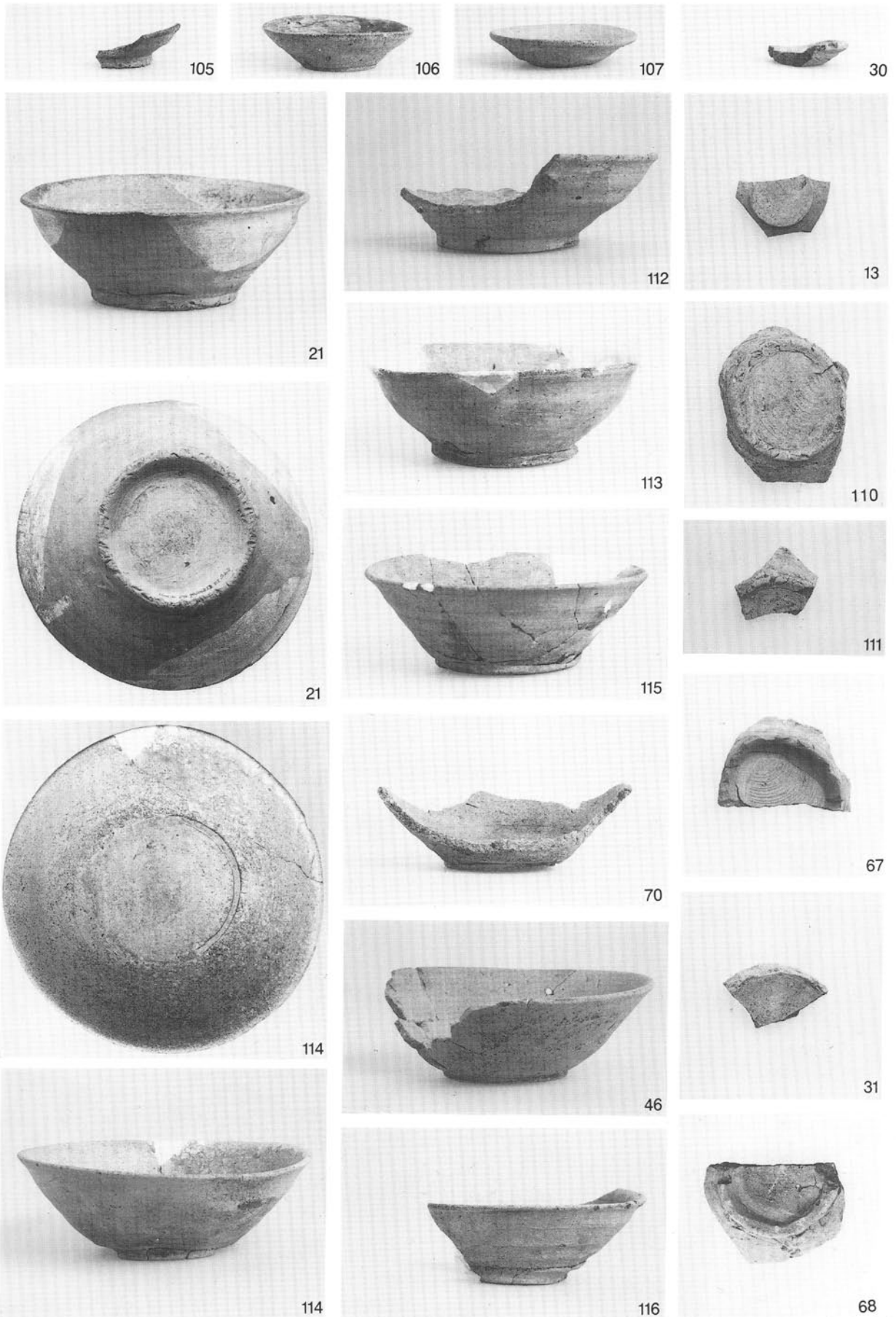


S D49土師器皿 (77) 出土状況 (北から)

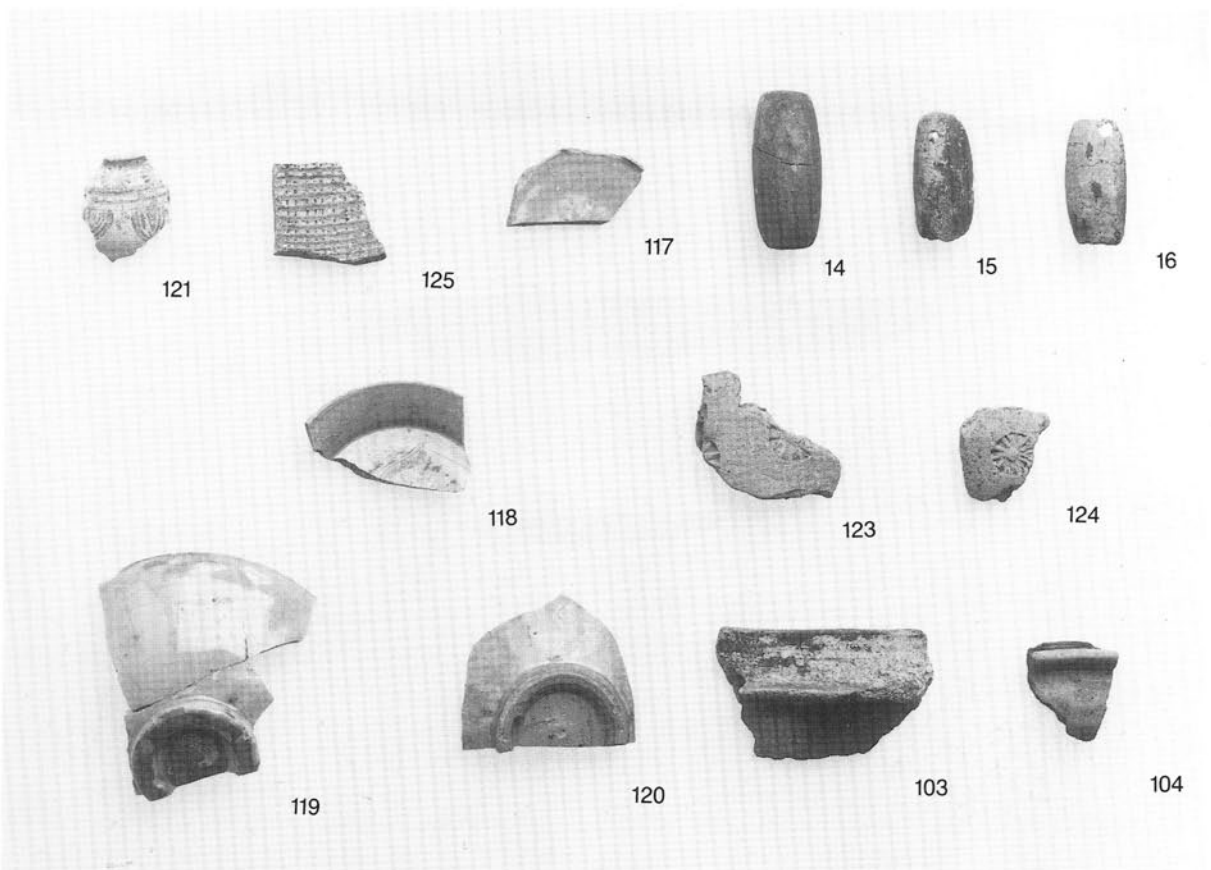
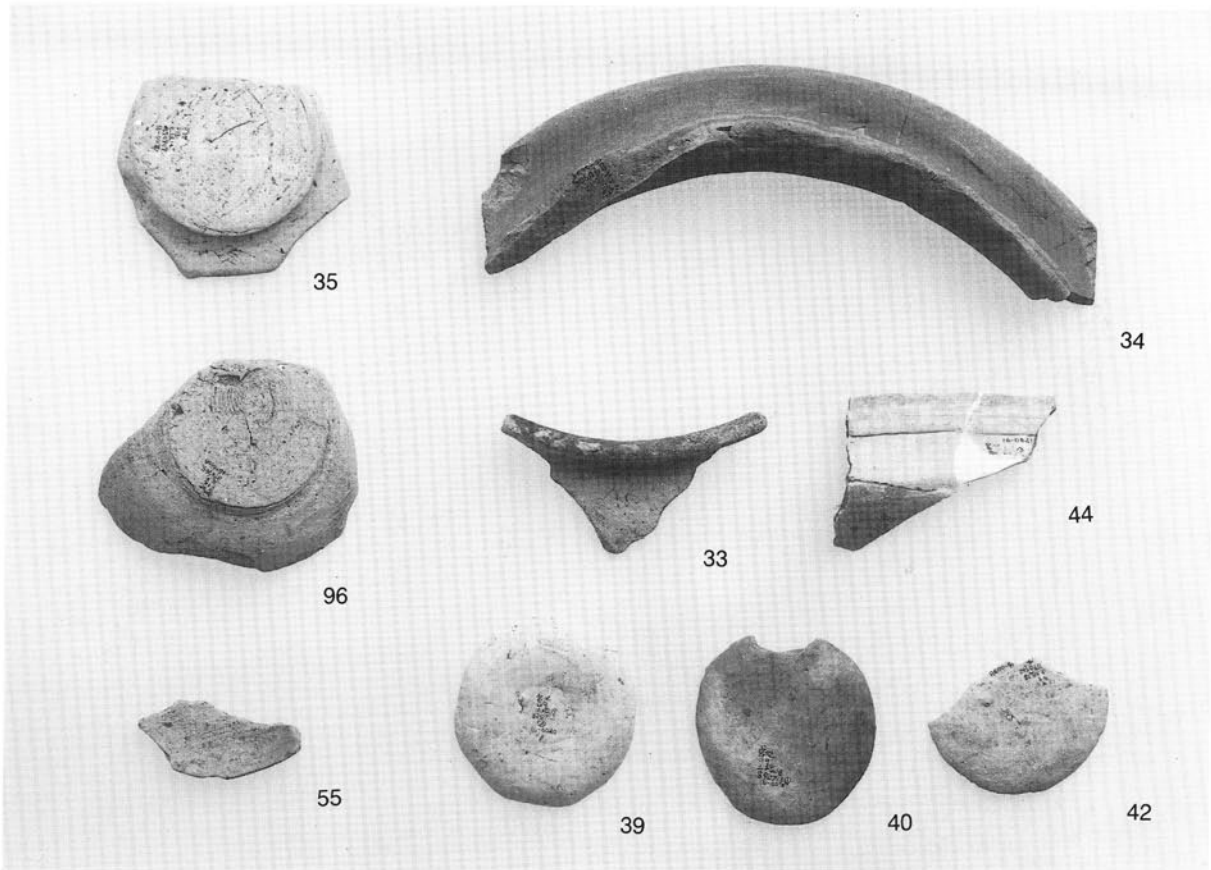


出土遺物 (1 : 3)

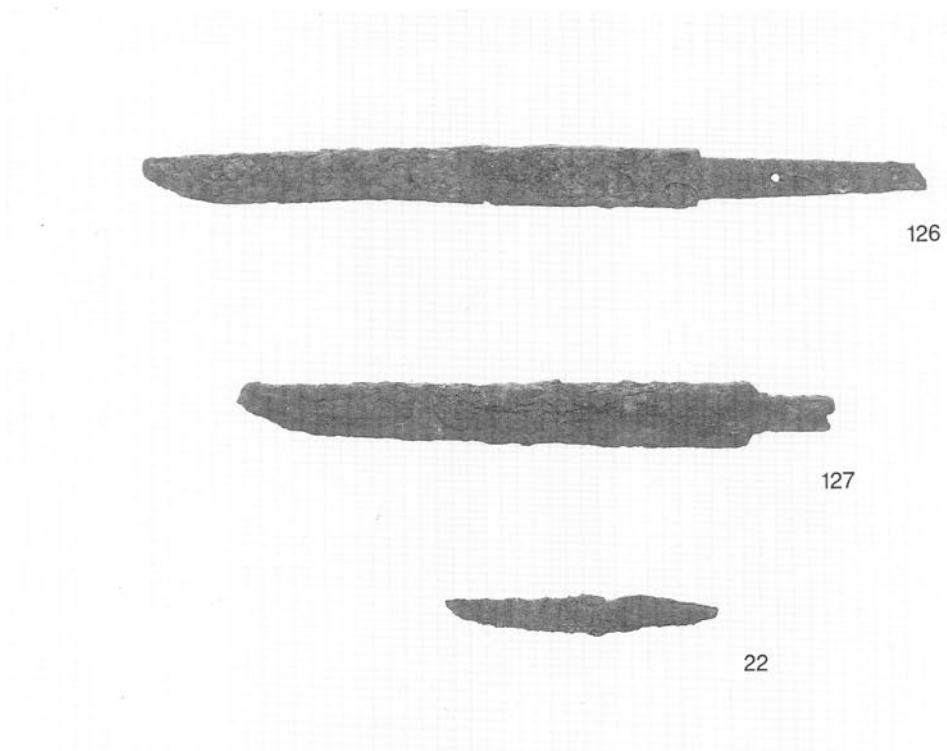
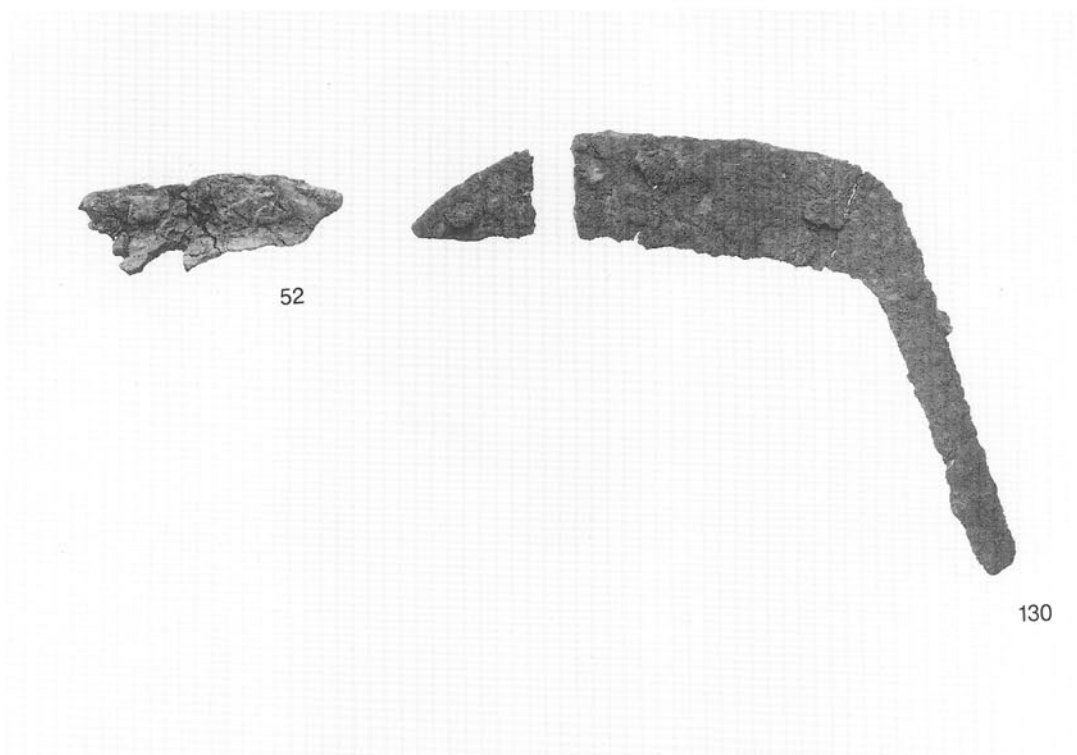
PL10



出土遺物 (1 : 3)



出土遺物 (1 : 3)



出土遺物 (1 : 3)

平成4(1992)年3月に刊行されたものをもとに
平成19(2007)年1月にデジタル化しました。

三重県埋蔵文化財調査報告101-4

近畿自動車道（勢和～伊勢）

埋蔵文化財発掘調査報告

——第4分冊——

1992（平成4）年3月31日

編集 三重県教育委員会

発行 三重県埋蔵文化財センター

印刷 東海印刷株式会社
